

消防年報

令和元年版



二宮町消防本部

まえがき

この消防年報は、消防行政の合理的な運営と、消防力の充実強化のための資料とし、あわせて、二宮町の消防現勢と平成30年中及び近年中における火災の実態や、消防、救急そして救助活動などの現状等について、消防関係者はもとより広く町民の方々にも紹介して、消防行政に対するご理解、ご協力をいただくとともに、防火思想と救急知識の高揚を図ることを目的として作成したものです。

本町の消防を知っていただく手がかりとして、また、火災や救急、救助そしてその他の災害予防のために少しでもお役にたてれば幸いです。

令和元年8月

二宮町消防本部

町民憲章

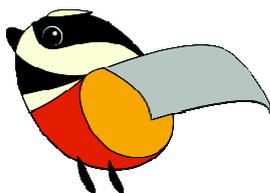
昭和53年7月5日制定

わたくしたちは、美しい自然に恵まれた「長寿の里」二宮の町民であることに誇りと責任をもって、より明るく豊かな町づくりのために町民憲章を定めます。

1. 郷土を愛し、自然をいかすきれいな二宮町をつくりましょう。
2. ふれあいを深め、ことばをかけあうさわやかな二宮町をつくりましょう。
3. きまりを守り、良習をはぐくむ住みよい二宮町をつくりましょう。
4. 幸せを願い、健やかな明るい二宮町をつくりましょう。
5. 教養を高め、文化のかおる豊かな二宮町をつくりましょう。

町の鳥

平成23年1月5日制定



『ヤマガラ』
常緑広葉樹林を好み、人懐っこく親しみやすい鳥で町が目指す自然豊かな心のふるさと「里山」のシンボルにふさわしい鳥です。

町の木

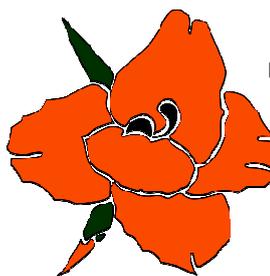
昭和48年11月3日制定



『つばき』
古くから武士や高貴な身分の人々にめでられ品種も多くさし木などで簡単にふやせます。町の中にも多く親しみの深い木です。

町の花

昭和48年11月3日制定



『カンナ』
明治の末に渡来した花で、生命力が強く、赤や黄と色もあざやかです。他の花の少なくなった頃に咲き出して町の中を明るくします。

目 次

二宮町の概要

◇概要	1
位置と地勢	1
人口の推移	2
◇消防の予算	3
町予算と消防予算との比較	3
消防予算額の内訳	3
消防費の人口比	3
◇消防のあゆみ	4

消防の現況

◇消防力の現況	9
職員の定員と実員	9
消防勢力	9
◇消防の組織	9
組織図	9
歴代消防長・消防団長	10
消防本部の仕事	11
消防署の仕事	11
消防庁舎の概要	11
消防ポンプ車等配置状況	12
消防配置図	13
平成30年度の主要行事	13
◇消防職員	14
消防職員年齢	14
消防職員勤続年数	14
消防職員居住地状況	14
◇消防団	15
消防団員の定員と実員数	15
消防団員の内訳とポンプ台数	15
消防団員勤続年数	15
消防団員年齢	16
消防団員の職業構成と就業形態	16
消防団員報酬	16
◇消防職員・団員受賞歴	16

火災予防

◇火災予防	17
火災予防条例に基づく届出状況	17
(1)各種届出状況	17
(2)防火対象物使用開始届出状況	18
消防用設備等設置届出状況	19
防火管理者届出状況	20
中高層建築物一覧表	21
用途別の消防同意処理状況	22
◇危険物	23
危険物製造所等の区分別設置件数の推移	23
危険物製造所等における危険物の貯蔵及び取扱量	23
倍数別危険物製造所等の設置状況	24
危険物製造所等に係る申請及び届出の状況	24
◇査察	25
(1)危険物製造所等に対する査察等の実施状況	25
(2)防火対象物に対する査察実施状況	26
(3)消防用設備等に対する完成検査実施状況	27

消防の活動

◇火災概要	28
火災の発生状況(過去10年間)	28
月別火災発生状況	29
◇消防隊の出場状況(火災・救急出動は除く)	30
月別救助・警戒・救急支援出場状況	30
月別応援火災・救急・救助等出場状況	39
◇救急	31
救急出場件数推移	31
月別救急活動状況	32
曜日別救急発生状況	33
時間別救急発生状況	33
事故種別不搬送件数	34
地区別出場件数	34
覚知別、交通事故の道路別出場件数	34
所要時間別出場件数と搬送人員	34
傷病程度と年令別搬送人員	35
応急処置等実施状況	35
応急手当講習会等の実施状況	36

◇通信	37
通信系統図	37
◇災害出動体制	38
救助出動体制	38
水防(自然災害)出動と体制	39
緊急消防援助隊	39
消防相互応援協定	39
◇消防水利	40
消防水利の現勢調	40
◇気象	41
月別気象状況	41
気象予報等発表状況調(横浜地方気象台発表)	42
過去5年間の気象	42

二宮町の概要



©東京ハイジ／二宮町

◇ 概要 ◇

二宮町は最初、師長(しなが)国に属する霜見(しほみ)という地名で呼ばれた東国の一山村でしたが、大化の改新(645年)で国、郡、里の制がとり入れられると、相模国に合併されました。

また、その頃、級津彦命(しなつひこのみこと)などをまつる川勾神社が、寒川神社の相模国「一の宮」に対し「二の宮」と称され、地域の鎮守として多くの人々から信仰されました。この頃から霜見も含めてこの地方が「二宮」と呼ばれるようになりました。

江戸時代には、幕府直轄地となって、一色、中里、二宮、山西、川勾の5か村による村制が施行され東海道の宿場として賑わいました。

明治22年に市町村制が施行され、5か村が合併し吾妻村となって、同年東海道本線の開通、明治35年二宮駅開設と発展し、昭和10年11月、町制の施行で二宮町となりました。

昭和40年代からは、気候温暖で山と海に囲まれたなだらかな丘陵が住宅地として人気を集め、住宅の造成も急速に進められ年々人口が増加しました。

これに対応するため、昭和57年には二宮駅舎が改良され、町の玄関が一新するとともに道路、公園、体育館など公共施設の建設が進められてきました。

現在は、公共下水道をはじめとする生活基盤の整備も進めており、よりよい住環境の実現のため新しいまちづくりを推進し、町制施行時は半農半漁でのどかなまちであった二宮町はおだやかな気候、風土があいまって住みよい湘南の住宅地として発展しながら現在に至っています。

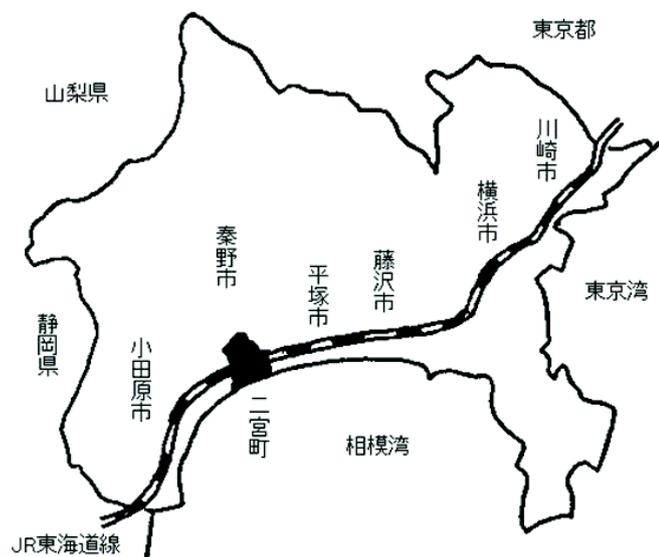
▼ 位置と地勢 ▼

二宮町は、神奈川県南西部の東経139度15分18秒北緯35度18分17秒(消防本部)に位置し、東京からの距離は約70kmです。東は大磯町、北は丹沢連峰を背に中井町、西は中村川をはさんで小田原市、南は「相模湾」に面しています。

町の形状は、おおよそ三角形で、中央部を2級河川の葛川が流れています。南部は東西の幅3.3km、北に進むにしたがって狭くなり、南北に3.8km、面積は9.08km²です。

町の東西に東海道本線、東海道新幹線、国道1号、西湘バイパスと小田原厚木道路、南北に県道秦野二宮線が走りそれぞれ町道と連結し交通至便なところではあります。

気候は温暖で、豊かな自然と新鮮な海の幸・山の幸に加え、純朴な風土と素晴らしい生活環境です。



▼ 人口の推移 ▼

《各年別》

各年4月1日現在

項目 年別	世帯数	人 口			1 世 帯 当 り の 人 口	人口密度 (人/km)	人口指数 (平成8年 =100)
		計	男	女			
平成 8年	10,169	30,567	15,020	15,547	3.01	3,411	100.0
平成13年	10,941	30,776	15,099	15,677	2.81	3,435	100.7
平成18年	11,028	30,078	14,588	15,490	2.73	3,313	98.4
平成22年	11,388	29,633	14,375	15,258	2.60	3,264	96.9
平成23年	11,475	29,514	14,294	15,220	2.57	3,250	96.6
平成24年	11,438	29,325	14,217	15,108	2.56	3,230	95.9
平成25年	11,477	29,152	14,131	15,021	2.54	3,211	95.4
平成26年	11,514	28,870	13,978	14,892	2.51	3,180	94.4
平成27年	11,538	28,594	13,799	14,795	2.48	3,149	93.5
平成28年	11,600	28,445	13,713	14,732	2.45	3,133	93.1
平成29年	11,275	28,090	13,495	14,595	2.49	3,094	91.9
平成30年	11,347	27,947	13,457	14,490	2.46	3,078	91.4
平成31年	11,393	27,803	13,404	14,399	2.44	3,062	91.0

《地区別》

各年4月1日現在

項目 地区別	平成 29 年		平成 30 年		平成 31年	
	人 口	世帯数	人 口	世帯数	人 口	世帯数
合 計	28,090	11,275	27,947	11,347	27,803	11,393
一 色	876	286	865	282	858	276
百合が丘	3,659	1,606	3,582	1,582	3,521	1,587
中 里	3,274	1,300	3,287	1,328	3,299	1,358
富士見が丘	3,113	1,248	3,091	1,260	3,075	1,263
二 宮	7,816	3,221	7,815	3,253	7,780	3,255
松 根	472	167	459	166	455	167
山 西	6,178	2,463	6,168	2,483	6,200	2,495
川 匂	577	219	572	224	549	215
緑 が 丘	2,125	765	2,108	769	2,066	777

※国勢調査を基礎としています。

◇ 消防の予算 ◇

▼ 町予算と消防予算との比較 ▼

平成31年度の一般会計当初予算額8,320,000千円(前年度対比8.5%増)のうち消防費の当初予算額は424,348千円(前年度対比16.3%増)で、一般会計当初予算額に占める割合は、5.1%となっています。

区 分 \ 年 度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
一 般 会 計 予 算 額	7,676,000 千円	7,610,000 千円	8,320,000 千円
消 防 予 算 額	403,873 千円	364,955 千円	424,348 千円
比 率	5.3%	4.8%	5.1%

▼ 消防予算額の内訳 ▼

内 訳	金 額	構 成	前年度比
消 防 費	424,348 千円	100.0%	59,393 千円
常 備 消 防 費	402,988 千円	95.0%	61,712 千円
非 常 備 消 防 費	21,360 千円	5.0%	▲ 2,319 千円

▼ 消防費の人口比 ▼

当 初 予 算 額	1 世 帯 当 たり	人 口 1 人 当 たり
一 般 会 計 予 算 額	8,320,000 千円	730,273 円
消 防 予 算 額	424,348 千円	37,246 円

※国勢調査を基礎とした世帯数及び人口(H31年4月1日現在 世帯数:11,393世帯 人口:27,803人)

◇ 消防のあゆみ ◇

- 明治 12年 一色村に消防器具を備えた消防体制が整備される。
- 明治 17年 一色村に私設消防組が誕生。
- 明治 25年 中里地区に私設消防組が誕生し、その後二宮、梅沢、山西の各地区に消防組誕生。
- 明治 37年 公設消防組を設置。(一色、中里、二宮、山西の各消防組)
- 大正 12年 9月 関東大震災発生。圧死21名、焼死4名、重傷者26名、全焼6戸、全壊406戸、半壊364戸、罹災人員4,716人。
- 昭和 6年 二宮消防組の手押ポンプを廃し、ガソリンポンプに切替。
- 昭和 10年 10月 葛川氾濫による水害発生。流失6戸、半壊4戸、床上浸水137戸、床下浸水155戸、道路欠損39ヶ所、橋流失17ヶ所、罹災人員1,639人。
- 昭和 12年 9月 各地区消防組を統一、二宮消防組となる。
- 昭和 14年 4月 二宮町警防団となる。(警防団員431名)
- 昭和 15年 1月 南口駅前大火発生。全焼69戸、半焼4戸、焼失棟数106棟、罹災人員374名。第1分団に消防ポンプ自動車を配置。
- 昭和 16年 7月 葛川氾濫による水害発生。流失9戸、床上浸水124戸、罹災人員 2,940人。
- 昭和 23年 4月 消防組織法が施行され、自治体消防として消防団を設置。(4個分団、消防団員258名)
二宮町消防団条例、規則、服務規程等を制定。
- 昭和 24年 6月 二宮町火災予防条例を制定。
- 昭和 27年 5月 第1回全国消防大会開かれる。
- 昭和 29年 4月 第2分団区域を2区域に分割、第2、第3分団とし、従来の第3、第4分団をそれぞれ、第4、第5分団と名称を変えて5個分団に組織替えし、1個分団20名編成となる。(団員数103名)
- 11月 第3分団消防車庫を新築、同分団に消防ポンプ自動車、第4、第5分団に小型動力ポンプと積載車を配備。
- 昭和 30年 7月 県営水道が開通、消火栓を設置。
- 10月 第2分団に消防ポンプ自動車を配備。
- 昭和 32年 8月 二宮町消防団員等公務災害補償条例・規則を制定。
第7回神奈川県消防操法大会に第2分団消防ポンプ自動車が出場。
- 昭和 33年 3月 (財)日本消防協会より表彰、竿頭綬を受ける。
- 7月 二宮町消防団条例・規則を改定。
- 昭和 34年 11月 第1分団の消防ポンプ自動車を更新。
- 昭和 35年 8月 第10回神奈川県消防操法大会に第1分団消防ポンプ自動車が出場。
- 昭和 36年 9月 電話自動化により火災専用電話(119番)を役場に設置。
- 12月 第4、第5分団の小型動力ポンプ更新。
- 昭和 37年 3月 消防庁長官より表彰、竿頭綬を受ける。
- 7月 二宮町火災予防条例を改正。
- 昭和 38年 9月 第13回県消防操法大会に第5分団小型動力ポンプが出場。

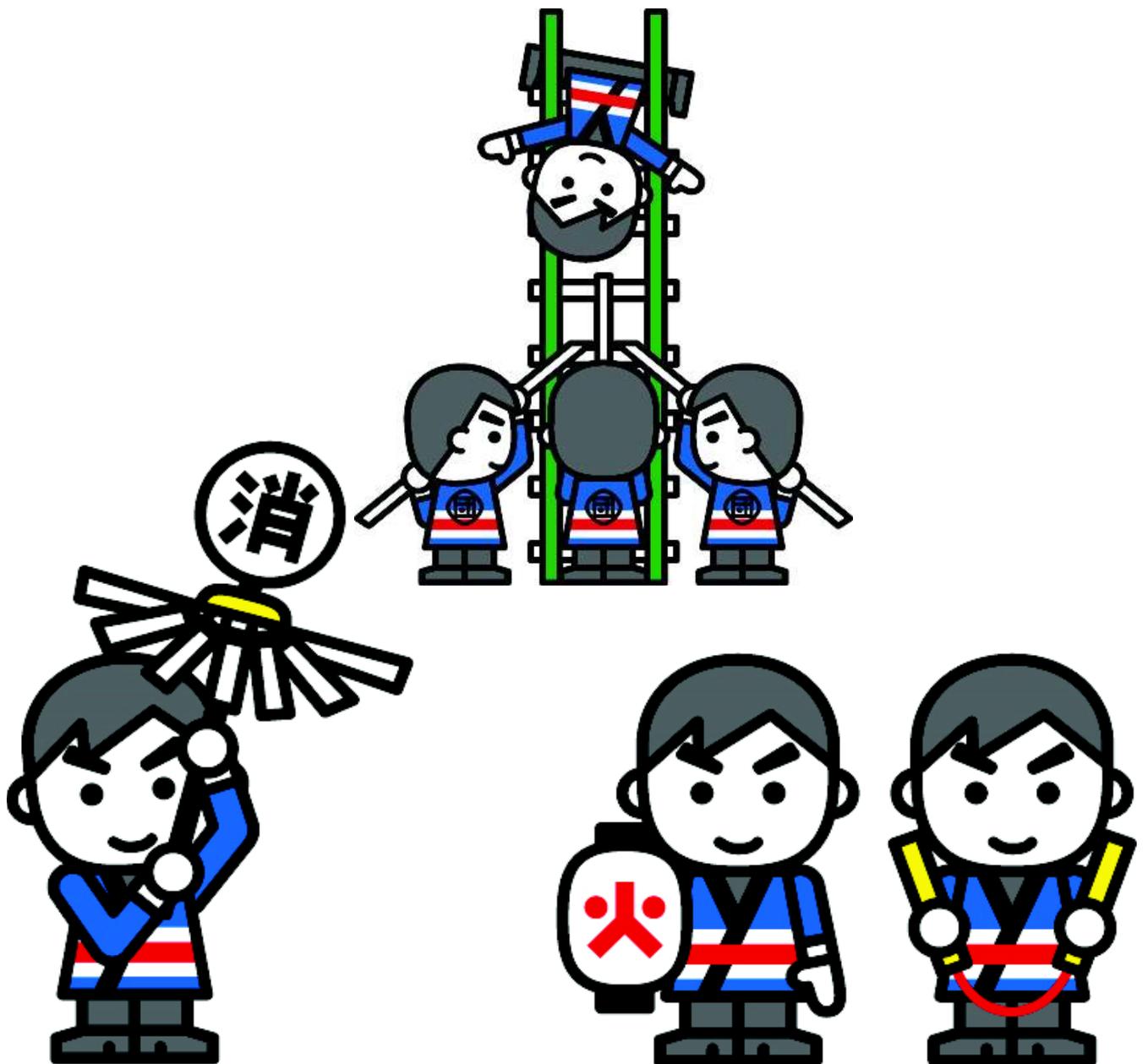
- 昭和 39年 3月 第2分団消防車庫を新築。
二宮町消防団員退職報償金制度が確立され、市町村の支給責任の共済制度を設ける。
二宮町非常勤消防団員に係る退職報償金支給条例を制定。
- 昭和 41年 1月 第4分団消防車庫を新築。
10月 第16回県消防操法大会に第4分団小型動力ポンプが出場。
12月 第4分団に消防ポンプ自動車を配置。(BS-I型)
- 昭和 42年 1月 第5分団消防車庫を新築。
12月 第5分団に消防ポンプ自動車を配置。(BS-I型)
- 昭和 43年 3月 第1分団消防車庫を新築。
自治体消防発足20周年。
(財)日本消防協会より表彰旗を受け、表彰旗の伝達、披露式典。
4月 二宮町非常勤消防団員退職報償金支給条例施行規則及び二宮町消防団員
服務規程を制定。
8月 二宮町火災予防条例施行規則を制定。
10月 第1回二宮町消防操法大会開催。
- 昭和 44年 10月 第2回二宮町消防操法大会開催。
第19回県消防操法大会に第3分団消防ポンプ自動車が出場。
- 昭和 45年 3月 消防庁長官より表彰旗を受け、表彰旗の伝達、披露式典。
12月 第3分団消防ポンプ自動車(水槽付)を更新。
- 昭和 46年 3月 二宮町課等設置条例の一部を改正し従来の総務課消防係より、4月1日
付けをもって消防課の設置を議決。
4月 県消防学校教官山崎勝也氏の派遣を受け、1年間の創設業務と職員の教
養指導を行う。
6月 二宮町消防職員の特殊勤務手当に関する条例の制定。
8月 神奈川県より救急車(トヨタMS66VY)寄贈。
第21回県消防操法大会に第2分団消防ポンプ自動車が出場。
9月 二宮町救急業務規則、二宮町消防職員の勤務時間等規則を制定。
救急業務開始(6日)。山崎消防課長以下職員15名。
11月 日本損害保険協会から消防ポンプ自動車の寄贈。(BD-I型)
12月 第2分団消防ポンプ自動車を更新。(BS-I型)
二宮町消防本部及び消防署の設置等に関する条例、二宮町消防賞じゅつ
金条例・規則の制定。
- 昭和 47年 1月 二宮町消防本部組織規則のほか、常備消防として必要な規則、規程を
制定。
消防庁舎竣工。
2月 二宮町消防本部・消防署を設置。(職員20名 定員28名)
消防署、水槽付消防ポンプ自動車を配置。(水-I B型)
8月 第22回県消防操法大会に第1分団消防ポンプ自動車が出場。
- 昭和 48年 1月 屈折はしご付消防ポンプ自動車を購入。(15m級)

- 昭和 48年 3月 第3分団消防車庫を新築。
 4月 消防職員定数33名となる。
 8月 第23回県消防操法大会に消防署が屈折はしご付消防ポンプ自動車基準操法で出場。
 11月 自治体消防発足25周年記念式を行う。
- 昭和 49年 2月 消防署に台車付小型動力ポンプ配置。
 4月 消防署に緊急工作車(小型動力ポンプ積載)を配置。
 8月 第24回県消防操法大会に第5分団消防ポンプ自動車が出場。
 9月 第1分団消防ポンプ自動車を更新。(BS-I型)
- 昭和 50年 9月 消防署車庫増築。
- 昭和 51年 4月 消防本部組織を一部変更、警防係を分割し予防係を新設。
 8月 第26回県消防操法大会に第4分団消防ポンプ自動車が出場。
 9月 藤田観光(株)より救急車の寄贈。
- 昭和 52年 9月 消防団条例改正審議始まる。
- 昭和 53年 3月 自治体消防発足30周年記念式を行う。
 消防団条例改正、議会で可決。
 4月 消防団員103名から78名に減員。
 8月 第28回県消防操法大会に第3分団が出場し、最優秀賞獲得。
 10月 全国消防操法大会に二宮町消防団として第3分団が出場。
- 昭和 54年 7月 消防署指令車更新。
- 昭和 55年 8月 第30回県消防操法大会に第2分団が出場。
- 昭和 56年 2月 二宮町防災備蓄倉庫落成。
 11月 第4分団小型動力ポンプ更新。
- 昭和 57年 2月 (財)日本消防協会特別表彰「まとい」受賞。
 3月 二宮町消防本部・消防署創設10周年及び日本消防協会特別表彰「まとい」受賞の記念式典を行う。
 7月 第1・第2・第3分団小型動力ポンプを配備。
 従来からの第4・第5分団を含み全分団配備する。
 8月 第32回県消防操法大会に第1分団が出場。
 11月 消防署水槽付消防ポンプ自動車更新。
- 昭和 58年 6月 第5分団車庫移転、新築。
 8月 第33回県消防操法大会に消防署が応用操法に出場。
 10月 第4分団消防ポンプ自動車更新。(CD-I型)
- 昭和 59年 8月 第34回県消防操法大会に第5分団が出場。
- 昭和 60年 3月 消防署救急車更新。
 10月 第5分団消防ポンプ自動車更新。(CD-I型)
- 昭和 62年 3月 (財)日本消防協会より表彰第2回目の竿頭授受ける。
 9月 日本損害保険協会から消防ポンプ自動車の寄贈。(BD-I型)
 11月 第3分団消防ポンプ自動車更新。(CD-I型)
- 昭和 63年 7月 消防署指令車更新。
 8月 第36回県消防操法大会に第4分団が出場し、優秀賞獲得。

- 昭和 63年 8月 (財)日本消防協会から小型動力ポンプ付積載車寄贈。
- 平成 元年 10月 第2分団消防ポンプ自動車更新。(CD-I型)
- 平成 2年 7月 消防署救急車更新。
- 平成 3年 8月 消防署資機材搬送車を購入。
- 9月 第1分団消防ポンプ自動車更新。(CD-I型)
- 平成 4年 4月 消防職員定数34名となる。防災担当職員1名町より派遣。
- 7月 第38回県消防操法大会に第3分団が出場。
- 9月 はしご付消防ポンプ自動車購入。(15m級)
- 平成 5年 4月 消防職員定数36名となる。
- 平成 6年 4月 消防職員定数37名となる。
- 11月 救急救命士の配置を開始。
- 平成 7年 1月 阪神・淡路大震災に救助隊を応援派遣。
- 11月 高規格救急自動車を購入。救急救命士1名配置(全2名)
- 平成 8年 4月 消防職員定数38名となる。
- 7月 第40回県消防操法大会に第2分団が出場。
- 12月 消防署水槽付消防ポンプ自動車更新。(水-I B型)
- 平成 9年 4月 防災係、総務部総務課へ移行。消防職員1名派遣。
- 消防本部組織を一部変更、消防課を新設、1課3係となる。
- 平成 10年 3月 庁舎増設部完成、緊急情報システム更新。(I型)
- 10月 庁舎既存部耐震補強工事完成。
- 11月 第4分団消防ポンプ自動車更新。(CD-I型)
- 12月 (財)日本消防協会へ第4分団旧消防ポンプ自動車を寄贈。
- 平成 11年 9月 第2・第4分団車庫耐震補強工事完了。
- 平成 12年 7月 第42回県消防操法大会に第1分団が出場。
- 8月 消防団無線を整備。(団本部・分団車両・携帯無線機)
- 12月 第5分団消防ポンプ自動車更新。(CD-I型)
- 平成 13年 1月 (財)日本消防協会へ第5分団旧消防ポンプ自動車を寄贈。
- 3月 高規格救急自動車を日本自動車工業会から寄贈される。
- 高度救命資器材等を整備。
- 平成 14年 2月 消防署消防ポンプ自動車更新。(CD-I型・災害対応特殊仕様)
- 平成 15年 10月 第3分団消防ポンプ自動車更新。(CD-I型)
- 12月 (財)日本消防協会へ第3分団旧消防ポンプ自動車を寄贈。
- 平成 16年 7月 第44回県消防操法大会に第5分団が出場。消防署積載車更新。
- 平成 17年 4月 消防職員定数46名となる。
- 10月 第2分団消防ポンプ自動車更新。(CD-I型)
- 12月 (財)日本消防協会へ第2分団旧消防ポンプ自動車を寄贈。
- 平成 18年 4月 平塚市消防本部と職員交流実施、1名派遣。
- 12月 (財)日本消防協会へ第2分団旧消防ポンプ自動車を寄贈。
- 消防署救助工作車購入。(II型)
- 平成 19年 4月 消防職員1名を総務部(防災安全係)へ派遣。
- 8月 第1分団消防ポンプ自動車更新。(CD-I型)
- 平成 20年 2月 (財)日本消防協会から広報車寄贈。

- 平成 20年 4月 消防職員2名を総務部(防災安全係)へ派遣。
7月 第46回県消防操法大会に第4分団が出場。
- 平成 21年 2月 第1分団消防車庫を更新。
3月 高規格救急自動車を日本自動車工業会から寄贈される。
高度救命資器材等を整備。
4月 組織・機構改革により、班長制の導入。
消防職員3名を町民生活部(防災安全課)へ派遣。
7月 消防署指令車購入。
- 平成 22年 4月 消防職員3名を町民生活部(防災安全課)へ派遣。
9月 (財)日本外交協会へ消防署旧はしご付消防ポンプ自動車を寄贈。
- 平成 23年 3月 東日本大震災に伴い、緊急消防援助隊(計2隊・13名)を派遣。
消防職員2名を町民生活部(防災安全課)へ派遣。
消防職員1名を都市経済部(都市整備課)へ派遣。
- 平成 24年 1月 災害対応特殊水槽付消防ポンプ自動車購入。(水-I B型)
2月 (財)日本外交協会へ消防署旧水槽付消防ポンプ自動車を寄贈。
4月 消防職員2名を町民生活部(防災安全課)へ派遣。
消防職員1名を都市経済部(都市整備課)へ派遣。
7月 第48回県消防操法大会に第3分団が出場。
- 平成 25年 4月 消防職員2名を町民生活部(防災安全課)へ派遣。
- 平成 26年 3月 (財)日本消防協会より表彰第3回目の竿頭綬受ける。
第3分団消防車庫を更新。
4月 消防職員2名を町民生活部(防災安全課)へ派遣。
12月 災害対応特殊救急自動車購入。
- 平成 28年 4月 組織・機構改革により、消防課の2班制(庶務班・予防班)、
消防署警備隊の3部制試行導入。
6月 第41回県消防救助技術指導会出場、陸上の部「ほふく救出」第1位。
7月 第50回県消防操法大会に第2分団が出場し、優秀賞。
8月 第45回全国消防救助技術大会に出場。(愛媛県松山市)
- 平成 29年 3月 消防庁長官より表彰、竿頭綬を受ける。
4月 平塚市・大磯町・二宮町共同消防指令センター運用開始。
10月 消防署消防ポンプ自動車更新。(CD-I型)
- 平成 30年 4月 消防職員1名を政策総務部(防災安全課)へ派遣。
- 平成 31年 4月 組織・機構改革により、消防課の3班制(庶務班・予防班・警防班)、
消防署警備隊の2部制導入。

消防の現況



◇ 消防力の現況 ◇

▼ 職員の定員と実員 ▼

(平成31年4月1日現在)

階級 区分	計	消防司令長	消防司令	消防司令補	消防士長	消防副士長	消防士	事務員	派遣員
定員	46	階級別定員なし							
実員	47	1	3	10	11	10	10	1	1

▼ 消防勢力 ▼

(平成31年4月1日現在)

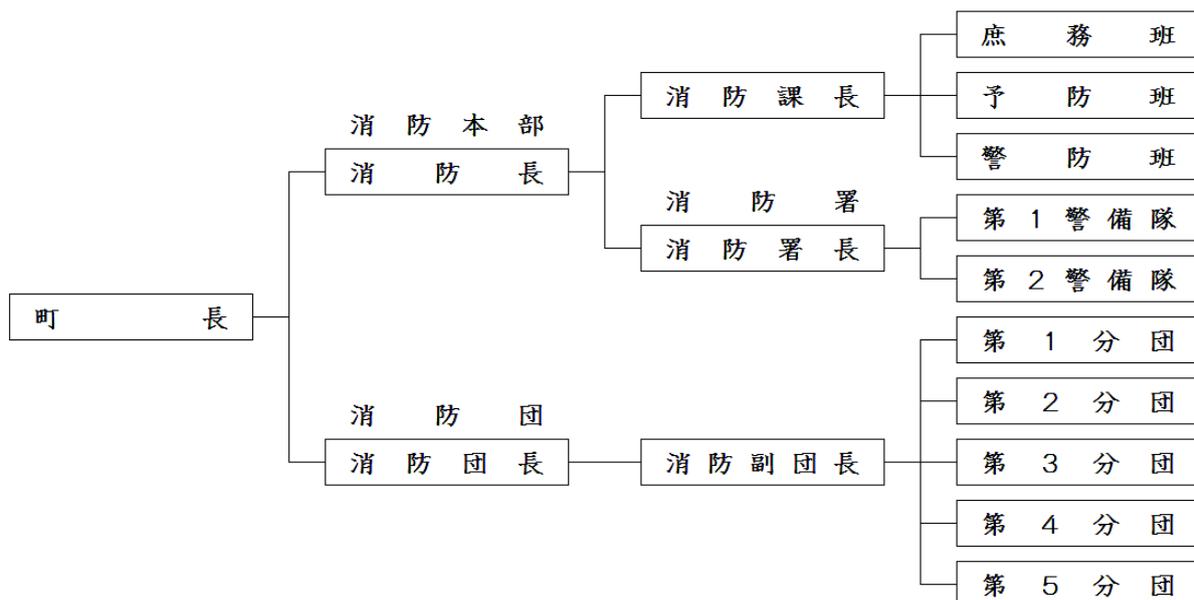
種別 区分	消防職員			消防団員			消防ポンプ車		
現況	46人			76人			7台		
基準単位	消防職員1名当り			消防団員1名当り			消防ポンプ車1台当り		
区分	面積 (km ²)	人口 (人)	世帯	面積 (km ²)	人口 (人)	世帯	面積 (km ²)	人口 (人)	世帯
算定数値	0.20	604.4	247.7	0.12	365.8	149.9	1.30	3,971.9	1,627.6

※消防職員の現況には派遣職員は含まない。

◇ 消防の組織 ◇

▼ 組織図 ▼

(平成31年4月1日現在)



▼ 歴代消防長 ▼

代別	氏名	就任年月日	退任年月日	在任期間	摘要
初代	脇 哲	昭和 47年 2月 1日	昭和 49年 11月 30日	2年 10月	助役兼任
2	柳川賢二	〃 49年 12月 1日	〃 50年 1月 31日	2月	町長兼任
3	池田準一	〃 50年 2月 1日	〃 56年 7月 31日	5年 6月	助役兼任
4	渡辺 正太郎	〃 56年 8月 1日	〃 59年 6月 31日	2年 11月	
5	岩本公夫	〃 59年 7月 1日	〃 61年 3月 31日	1年 9月	
6	加藤孝次	〃 61年 4月 1日	平成 2年 3月 31日	4年	
7	橘川吉一	平成 2年 4月 1日	〃 2年 12月 31日	9月	
8	川口喜宏	〃 3年 1月 1日	〃 8年 3月 31日	5年 3月	
9	露木 豊	〃 8年 4月 1日	〃 8年 7月 8日	3月	
10	西山喜介	〃 8年 7月 9日	〃 9年 3月 31日	9月	助役兼任
11	脇 純治	〃 9年 4月 1日	〃 10年 12月 31日	1年 9月	
12	古谷一夫	〃 11年 1月 1日	〃 17年 3月 31日	6年 3月	
13	菊地 元	〃 17年 4月 1日	〃 20年 3月 31日	3年	
14	原 幸男	〃 20年 4月 1日	〃 23年 3月 31日	3年	
15	加藤義則	〃 23年 4月 1日	〃 24年 3月 31日	1年	
16	西山弘和	〃 24年 4月 1日	〃 25年 3月 31日	1年	
17	橘川壽郎	〃 25年 4月 1日	〃 26年 3月 31日	1年	
18	小熊 朗	〃 26年 4月 1日	〃 29年 3月 31日	3年	
19	林 栄一	〃 29年 4月 1日	〃 30年 3月 31日	1年	
20	西山義勝	〃 30年 4月 1日	〃 31年 3月 31日	1年	
21	小椋淳喜	〃 31年 4月 1日		現 在	

▼ 歴代消防団長 ▼

代別	氏名	就任年月日	退任年月日	在任期間
初代	西山喜八郎	昭和 23年 4月 1日	昭和 25年 3月 31日	2年
2	片岡彦十郎	〃 25年 4月 1日	〃 27年 3月 31日	2年
3	小沢新治	〃 27年 4月 1日	〃 31年 3月 31日	4年
4	添田靖一	〃 31年 4月 1日	〃 33年 3月 31日	2年
5	西山信次	〃 33年 4月 1日	〃 35年 3月 31日	2年
6	野谷伸造	〃 35年 4月 1日	〃 37年 3月 31日	2年
7	原 兼太郎	〃 37年 4月 1日	〃 39年 3月 31日	2年
8	柳川賢二	〃 39年 4月 1日	〃 43年 3月 31日	4年
9	原 久雄	〃 43年 4月 1日	〃 49年 3月 31日	6年
10	渡辺 正太郎	〃 49年 4月 1日	〃 53年 3月 31日	6年
11	西山 昇	〃 53年 4月 1日	〃 57年 3月 31日	4年
12	脇 政雄	〃 57年 4月 1日	〃 61年 3月 31日	4年
13	露木昭治	〃 61年 4月 1日	平成 4年 3月 31日	6年
14	古木定男	平成 4年 4月 1日	〃 6年 3月 31日	2年
15	簗島保男	〃 6年 4月 1日	〃 12年 3月 31日	6年
16	二見泰弘	〃 12年 4月 1日	〃 16年 3月 31日	4年
17	柳川 駅司	〃 16年 4月 1日	〃 20年 3月 31日	4年
18	杉崎一夫	〃 20年 4月 1日	〃 28年 3月 31日	8年
19	池田昌隆	〃 28年 4月 1日		現 在

▼ 消防本部の仕事 ▼

消防本部は、市町村の消防事務を統括する機関で、人事・予算・消防の企画運営などの事務を行い、次のように各班に分かれて仕事を受け持っています。

《庶務班》

一般文書の収受・保存、予算の編成・執行の調整、例規の制定・改廃、消防業務の広域化、消防職・団員の人事・公務災害・福利厚生、貸与物品の管理、庁舎の維持管理、消防情報及び消防統計に関すること。

《予防班》

火災予防計画・指導、消防警備計画、火災予防広報・啓発、防火管理、消防用設備の設置指導、危険物の貯蔵取扱い指導・規制、火気取扱い指導、建築物等の許認可の同意、開発行為等に対する消防施設設置指導、その他、火災予防に関すること。

《警防班》

消防通信、火災警報、消防相互応援協定、消防力の整備指針、消防職・団員の教育訓練、消防団車両・機械器具の管理、災害統計、水防団、メディカルコントロール協議会、応急手当の普及啓発、非常招集などの警防に関すること。

▼ 消防署の仕事 ▼

消防署は、火災の予防・警戒・鎮圧・救急救助などの活動の第一線部隊としての仕事をしており、主な仕事は次のようになっています。

《警備隊》

災害の警戒、防ぎよ活動、傷病者の応急救護を要する者の応急処置及び搬送。火災の原因・損害調査、消防気象観測、警防・水利調査、車両点検整備、各種訓練指導協力その他消防に関すること。

▼ 消防庁舎の概要 ▼

所在地	二宮町中里 711-1 番地		
構造	① 鉄筋コンクリート造2階建	(既存棟)	
	② 鉄骨造2階建	(増築棟)	
建築面積	① 360.24㎡		
	② 345.12㎡	計	705.36 ㎡
延面積	① 676.14㎡		
	② 536.95㎡	計	1,213.09 ㎡
敷地面積	1,394.17㎡		
竣工	① 昭和 47 年 1 月 31 日		
	② 平成 10 年 9 月 30 日	(既存棟耐震改修)	

▼ 消防ポンプ車等配置状況 ▼

(平成31年4月1日現在)

種 別	社名 年式	ポンプ 製作所	ポンプ 級 別	規 格			定員	総重量 kg	燃料	総排気量 CC	購 入 年月		
				長さ m	幅 m	高さ m							
消 防 署	災害対応特殊 水槽付消防 ポンプ自動車	日野 H23	長野 ポンプ	A 2	7.30	2.35	3.40	6	10,000	軽油	6,403	H24.1	
	普通消防 ポンプ自動車	日野 H29	長野 ポンプ	A 2	5.99	1.88	2.90	5	6,955	軽油	4,000	H29.10	
	救急車 1 (高規格)	日産 H21	—	—	5.64	1.90	2.47	7	2,740	ガソリン	3,490	H21.3	
	救急車 2 災害対応特殊 救急自動車	トヨタ H26	—	—	5.65	1.89	2.49	7	3,265	ガソリン	2,690	H26.12	
	救助工作車	日野 H18	—	—	7.48	2.30	3.20	6	9,780	軽油	6,400	H18.12	
	指 令 車	トヨタ H21	—	—	4.63	1.69	1.86	7	1,885	ガソリン	1,990	H21.7	
	積 載 車	日産 H16	—	—	4.67	1.69	2.20	6	3,270	ガソリン	1,990	H16.7	
	広 報 車	ダイハツ H20	—	—	3.39	1.47	1.92	4	1,460	ガソリン	650	寄 贈	
	小 型 動 力 ポンプ	ラビット 富士ロビン	富士ロビン	B 3	0.66	0.58	0.72	—	88	ガソリン	635	H12.12	
消 防 団	本 部 団 本 部 車	日産 H29	—	—	3.39	1.47	1.96	4	1,390	ガソリン	650	寄 贈	
	第 一 分 団	普通消防 ポンプ自動車	イスズ H19	モリタ	A 2	5.83	1.88	2.45	9	4,435	軽油	2,990	H19. 8
	小 型 動 力 ポンプ	ラビット H13	富士 ロビン	B 3	0.66	0.58	0.72	—	88	ガソリン	635	H13. 9	
	第 二 分 団	普通消防 ポンプ自動車	イスズ H17	モリタ	A 2	5.65	1.88	2.45	9	4,075	軽油	4,770	H17.10
	小 型 動 力 ポンプ	ラビット H13	富士 ロビン	B 3	0.66	0.58	0.72	—	88	ガソリン	635	H13. 9	
	第 三 分 団	普通消防 ポンプ自動車	イスズ H15	モリタ	A 2	5.65	1.88	2.45	9	4,085	軽油	4,770	H15.10
	小 型 動 力 ポンプ	ラビット H13	富士 ロビン	B 3	0.66	0.58	0.72	—	88	ガソリン	635	H13.9	
	第 四 分 団	普通消防 ポンプ自動車	イスズ H10	モリタ	A 2	5.48	1.88	2.40	9	3,975	軽油	4,570	H10.11
	小 型 動 力 ポンプ	ラビット H11	富士 ロビン	B 3	0.66	0.58	0.72	—	88	ガソリン	635	H11.9	
	第 五 分 団	普通消防 ポンプ自動車	イスズ H12	モリタ	A 2	5.48	1.88	2.45	9	4,335	軽油	4,570	H12.12
小 型 動 力 ポンプ	ラビット H11	富士 ロビン	B 3	0.66	0.58	0.72	—	88	ガソリン	635	H11.9		

▼ 消防配置図 ▼

管轄区域

〈消防本部・消防署〉

町内全域

〈第1分団〉

川勾地区
山西地区

〈第2分団〉

上町地区
中町地区
下町地区

〈第3分団〉

上町・中町・下町を除く
二宮地区及び元町地区
富士見が丘地区
松根地区

〈第4分団〉

中里地区
百合が丘1丁目地区

〈第5分団〉

一色
百合が丘2丁目地区
百合が丘3丁目地区
緑が丘地区



▼ 平成30年度の主要行事 ▼

4月10日	～ 15日	新入団員消防訓練 (延べ3日間)
5月12日		消防署消防ポンプ性能試験
5月13日		消防団消防ポンプ性能試験
6月12日		神奈川県消防救助技術指導会に出場
10月17日		神奈川県消防職団員消防慰霊祭に出席
10月28日		かながわ消防フェアに参加
11月 9日	～ 15日	秋の火災予防運動を実施
11月11日		湘南にのみやふるさとまつり参加協力
12月25日	～ 31日	歳末火災特別警戒を実施
1月 6日		消防出初式(二宮町民運動場)
1月27日		文化財消防訓練(西光寺)
3月 1日	～ 7日	春の火災予防運動を実施
3月24日		入退団式

◇ 消防職員 ◇

▼ 消防職員の年齢 ▼

(平成31年4月1日現在)

階級 区分	計	消 防 司令長	消 防 司 令	消 防 司令補	消 防 士 長	消 防 副士長	消防士	事 務 吏 員	派 遣 職 員
計	47	1	3	10	11	10	10	1	1
18～19才	2						2		
20～25才	6						6		
26～30才	6					4	2		
31～35才	14				6	6		1	1
36～40才	5				5				
41～45才	5			5					
46～50才	4		1	3					
51～55才	3	1	1	1					
56～60才	2		1	1					
平均年齢	35.7	54.0	53.0	47.8	34.7	30.9	22.8	34.0	33.0

▼ 消防職員の勤続年数 ▼

(平成31年4月1日現在)

階級 区分	計	消 防 司令長	消 防 司 令	消 防 司令補	消 防 士 長	消 防 副士長	消防士	事 務 吏 員	派 遣 職 員
計	47	1	3	10	11	10	10	1	1
0～4年	12	1					10	1	
5～9年	8					7			1
10～14年	13				10	3			
15～19年	1				1				
20～24年	3			3					
25～29年	6			6					
30～34年	2		2						
35年以上	2		1	1					
平均年数	12.7	0.0	34.3	26.3	12.5	7.2	1.5	1.0	6.0

▼ 消防職員居住地状況 ▼

(平成31年4月1日現在)

居 住 地 名	町 内									町 外					合 計	
	一 緑 が 丘	中 里	富 士 見 が 丘	二 宮	山 西	百 合 が 丘	松 根	小 計	大 磯 町	小 田 原 市	秦 野 市	平 塚 市	茅 ヶ 崎 市	小 計		
人員	1	1	5	1	12	8	3	0	31	3	3	4	3	3	16	47

◇ 消防団 ◇

▼ 消防団員の定員と実員数 ▼

(平成31年4月1日現在)

消防団数	分団数	階級 人員	計	団 長	副団長	分団長	副分団長	班 長	団 員
		定 員							
1	5	定 員	78	1	2	5	5	30	35
		実 員	76	1	2	5	5	30	33

▼ 消防団員の内訳とポンプ台数 ▼

(平成31年4月1日現在)

階級・ ポンプ 所属	消 防 団 員 数							ポ ン プ 台 数		
	計	団 長	副団長	分団長	副分団長	班 長	団 員	計	消防ポンプ 自 動 車	小型動力 ホ ン プ
計	76	1	2	5	5	30	33	10	5	5
本 部	3	1	2							
第 1 分 団	15			1	1	6	7	2	1	1
第 2 分 団	13			1	1	6	5	2	1	1
第 3 分 団	15			1	1	6	7	2	1	1
第 4 分 団	15			1	1	6	7	2	1	1
第 5 分 団	15			1	1	6	7	2	1	1

▼ 消防団員在籍年数 ▼

(平成31年4月1日現在)

階級 年 数	計	団 長	副団長	分団長	副分団長	班 長	団 員
合 計	76	1	2	5	5	30	33
1 年 未 満	8						8
1 年 ～ 4 年	32					10	22
5 年 ～ 9 年	25			1	3	18	3
10 年 ～ 19 年	10	1	1	4	2	2	
20 年 ～ 29 年	1		1				
平均年数	5.0	19.0	17.5	11.2	9.2	6.0	1.8

▼ 消防団員年齢 ▼

(平成31年4月1日現在)

区分	階級						
	計	団長	副団長	分団長	副分団長	班長	団員
計	76	1	2	5	5	30	33
21才～25才	1						1
26才～30才	3						3
31才～35才	8					1	7
36才～40才	25			1		11	13
41才～45才	20			2	2	12	4
46才～50才	13		1	2	3	4	3
51才～55才	3					2	1
56才以上	3	1	1				1
平均年齢	41.4	60.0	53.0	44.4	46.8	42.3	38.1

▼ 消防団員の職業構成と就業形態 ▼

(平成31年4月1日現在)

計	職業構成													計	就業形態								
	農 業	林 業	漁 業	鉱 業	建 設 業	製 造 業	熱 電 給 水 道 業	電 気 ・ ガ ス 業	飲 食 ・ 小 売 業	卸 売 ・ 保 険 業	金 融 ・ 保 険 業	不 動 産 業	サ ー ビ ス 業		さ れ な い 他 の 分 類	公 務 ・ 他 に 分 類 さ れ な い もの	そ の 他	被 用 者	役 員	雇 用 主	被 雇 用 者 の 主	被 雇 用 者 の 主	家 族 従 業 者
76					9	20	4	8	1	1	15	6	12	76	57	4		2	6				7

▼ 消防団員報酬 ▼

(平成31年4月1日現在)

区分	階級					
	団長	副団長	分団長	副分団長	班長	団員
年額	135,000円	90,000円	49,000円	40,000円	33,000円	33,000円
警戒・訓練等	一律 1,500円					
災害出動	一律 3,000円					

◇ 消防職員・団員受賞歴 ◇

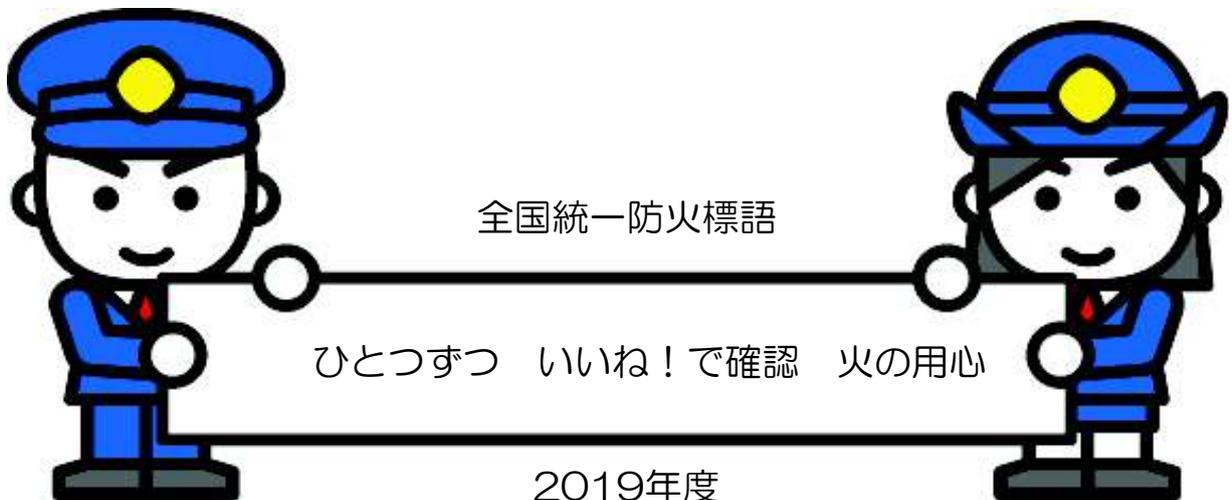
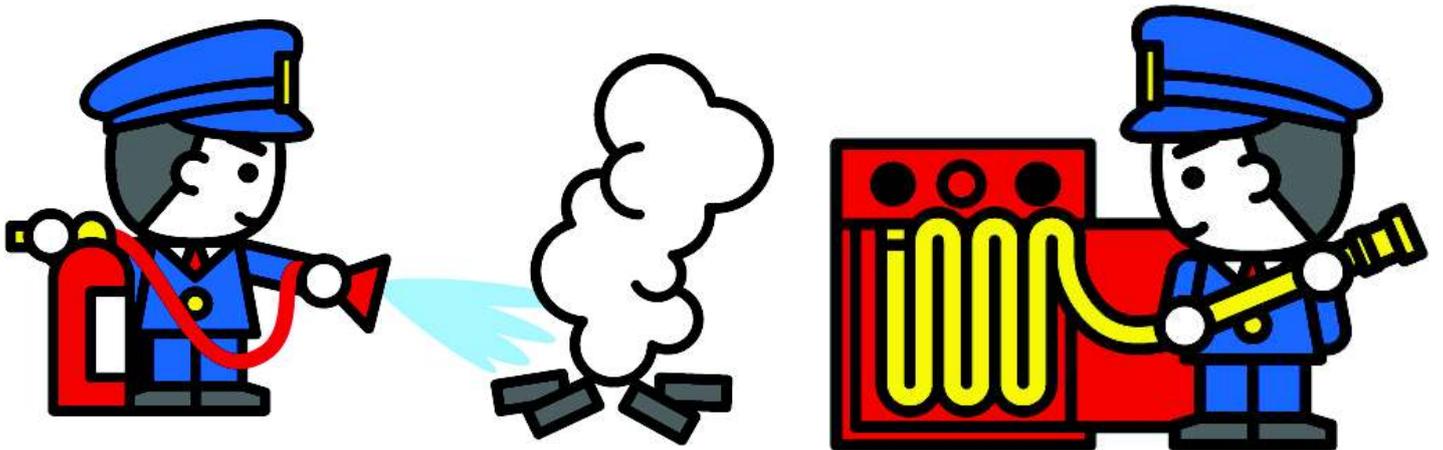
団体

受章年度	表彰区分	受章年度	表彰区分
昭和33年度	日本消防協会竿頭綬	昭和57年度	日本消防協会特別表彰「まとい」
昭和37年度	消防庁竿頭綬	昭和62年度	日本消防協会竿頭綬
昭和43年度	日本消防協会表彰旗	平成17年度	神奈川県消防協会竿頭綬
昭和45年度	消防庁表彰旗	平成25年度	日本消防協会竿頭綬
昭和53年度	神奈川県消防操法大会最優秀賞	平成28年度	消防庁竿頭綬

個人

受章者	表彰区分	受章日	受章者	表彰区分	受章日
原久雄	木杯	昭和62年11月3日	宮戸康夫	瑞宝単光章	平成26年4月29日
露木昭治	勲七等瑞宝章	平成7年11月7日	杉崎一夫	消防庁長官	平成28年3月9日
西山昇	勲六等瑞宝章	平成10年4月29日	松木正則	瑞宝単光章	平成28年4月29日
柳川駅司	消防庁長官	平成18年3月3日			

火災予防



全国統一防火標語

ひとつずつ いいね！で確認 火の用心

2019年度

◇ 火災予防 ◇

▼ 火災予防条例に基づく届出状況 ▼

(1) 各種届出状況

各種届出	年 中	平成28年	平成29年	平成30年
合 計		78	83	88
炉 設 備			3	
厨 房 設 備				
温 風 暖 房 機 設 備				
ボ イ ラ ー 設 備		1		1
給 湯 湯 沸 設 備			1	
乾 燥 設 備			2	
サ ウ ナ 設 備				
ヒートポンプ冷暖房機設備				
火花を生ずる設備				
放 電 加 工 機 設 備				
変 電 設 備			2	1
発 電 設 備				
蓄 電 池 設 備				1
ネオン管灯設備				
火災と紛らわしい行為等		49	39	50
煙火の打上げ、仕掛け等		3	7	5
催物の開催等		1	1	1
指 定 洞 道 等				
屋外催しに伴う露店の開設		23	27	28
少量危険物貯蔵・取扱		1	1	1
指定可燃物貯蔵・取扱				

(2) 防火対象物使用開始届出状況

防火対象物の区分		年 中	平成28年	平成29年	平成30年
		合 計	12	10	7
1項	イ	映 画 館			
	ロ	公 会 堂 ・ 集 会 場	1		
2項	イ	キ ャ バ レ ー 等			
	ロ	遊 技 場 等			
	ハ	性 風 俗 関 連 等			
	ニ	カ ラ オ ケ ボ ッ ク ス 等 個 室 型 店 舗			
3項	イ	料 理 店 等			1
	ロ	飲 食 店 等		1	
4項		店 舗 ・ マ ー ケ ッ ト	2	4	2
5項	イ	旅 館 ・ ホ テ ル			
	ロ	共 同 住 宅		1	
6項	イ	病 院 ・ 診 療 所			
	ロ	福 祉 施 設 等			
	ハ	福 祉 施 設 等	4	2	1
	ニ	幼 稚 園 等			
7項		学 校			
8項		図 書 館 等			
9項	イ	蒸 気 ・ 熱 気 浴 場			
	ロ	イ 以 外 の 公 衆 浴 場			
10項		駅 舎			
11項		神 社 等			
12項	イ	工 場 ・ 作 業 場			1
	ロ	映 画 ・ ス タ ジ オ 等			
13項	イ	駐 車 場 等			
	ロ	飛 行 機 の 格 納 庫 等			
14項		倉 庫 等			1
15項		事 務 所 等	2		1
16項	イ	特 定 複 合 用 途	2	2	
	ロ	複 合 用 途	1		
16項の2		地 下 街			
16項の3		16 項 2 以 外 の 地 階			
17項		重 要 文 化 財 等			
18項		ア ー ケ ー ド			

※6項ロに関しては、主として要介護状態にある者を入居させるもの。

※6項ハは、6項ロ以外の福祉施設

▼ 消防用設備等設置届出状況 ▼

防火対象物の区分		年 中	平成28年	平成29年	平成30年
		合 計	20	40	17
1項	イ	映 画 館			
	ロ	公 会 堂 ・ 集 会 場	2		2
2項	イ	キ ャ バ レ ー 等			
	ロ	遊 技 場 等			
	ハ	性 風 俗 関 連 等			
	ニ	カ ラ オ ケ ボ ッ ク ス 等 個 室 型 店 舗			
3項	イ	料 理 店 等			
	ロ	飲 食 店 等		1	
4項		店 舗 ・ マ ー ケ ッ ト	2	15	3
5項	イ	旅 館 ・ ホ テ ル			
	ロ	共 同 住 宅	2		1
6項	イ	病 院 ・ 診 療 所			
	ロ	福 祉 施 設 等		3	3
	ハ	福 祉 施 設 等	4	11	2
	ニ	幼 稚 園 等	1	1	1
7項		学 校	1	2	2
8項		図 書 館 等			
9項	イ	蒸 気 ・ 熱 気 浴 場			
	ロ	イ 以 外 の 公 衆 浴 場			
10項		駅 舎			
11項		神 社 等			
12項	イ	工 場 ・ 作 業 場	1	1	1
	ロ	映 画 ・ ス タ ジ オ 等			
13項	イ	駐 車 場 等			
	ロ	飛 行 機 の 格 納 庫 等			
14項		倉 庫 等			1
15項		事 務 所 等	4	2	1
16項	イ	特 定 複 合 用 途	3	4	
	ロ	複 合 用 途			
16項の2		地 下 街			
16項の3		16 項 2 以 外 の 地 階			
17項		重 要 文 化 財 等			
18項		ア ー ケ ード			

※6項ロは、主として要介護状態にある者を入居させる福祉施設

※6項ハは、6項ロ以外の福祉施設

▼ 防火管理者届出状況 ▼

(平成31年4月1日現在)

防火対象物の区分		対象物数・届出数	消防法第17条 対象物	消防法第8条 対象物	防火管理者 届出済対象物
合 計			717	202	168
1項	イ	映 画 館			
	ロ	公 会 堂 ・ 集 会 場	40	37	18
2項	イ	キ ャ バ レ ー 等			
	ロ	遊 技 場 等			
	ハ	性 風 俗 関 連 等			
	ニ	カ ラ オ ケ ボ ッ ク ス 等 個 室 型 店 舗			
3項	イ	料 理 店 等			
	ロ	飲 食 店 等	23	17	13
4項		店 舗 ・ マ ー ケ ッ ト	39	21	17
5項	イ	旅 館 ・ ホ テ ル	4	2	2
	ロ	共 同 住 宅	295	41	40
6項	イ	病 院 ・ 診 療 所	25	2	2
	ロ	福 祉 施 設 等	6	6	6
	ハ	福 祉 施 設 等	28	18	18
	ニ	幼 稚 園 等	5	5	5
7項		学 校	8	7	7
8項		図 書 館 等	1	1	1
9項	イ	蒸 気 ・ 熱 気 浴 場			
	ロ	イ 以 外 の 公 衆 浴 場			
10項		駅 舎			
11項		神 社 等	20	4	3
12項	イ	工 場 ・ 作 業 場	43	1	1
	ロ	映 画 ・ ス タ ジ オ 等			
13項	イ	駐 車 場 等			
	ロ	飛 行 機 の 格 納 庫 等			
14項		倉 庫 等	8		
15項		事 務 所 等	62	18	17
16項	イ	特 定 複 合 用 途	70	21	17
	ロ	複 合 用 途	40	1	1
16項の2		地 下 街			
16項の3		16 項 2 以 外 の 地 階			
17項		重 要 文 化 財 等			
18項		ア ー ケ ー ド			

※6項ロは、主として要介護状態にある者を入居させる福祉施設

※6項ハは、6項ロ以外の福祉施設

▼ 中高層建築物一覧表 ▼

(平成31年4月1日現在)

防火対象物の区分		階 数	3階・4階	5階	6階	7階	8階
		合 計	113	31	3		1
1項	イ	映 画 館					
	ロ	公 会 堂 ・ 集 会 場	3				
2項	イ	キ ャ バ レ ー 等					
	ロ	遊 技 場 等					
	ハ	性 風 俗 関 連 等					
	ニ	カ ラ オ ケ ボ ッ ク ス 等 個 室 型 店 舗					
3項	イ	料 理 店 等					
	ロ	飲 食 店 等					
4項		店 舗 ・ マ ー ケ ッ ト	3				
5項	イ	旅 館 ・ ホ テ ル	1				
	ロ	共 同 住 宅	22	29	3		1
6項	イ	病 院 ・ 診 療 所	3				
	ロ	福 祉 施 設 等	3				
	ハ	福 祉 施 設 等	6				
	ニ	幼 稚 園 等					
7項		学 校	6	1			
8項		図 書 館 等					
9項	イ	蒸 気 ・ 熱 気 浴 場					
	ロ	イ 以 外 の 公 衆 浴 場					
10項		駅 舎					
11項		神 社 等					
12項	イ	工 場 ・ 作 業 場	2				
	ロ	映 画 ・ ス タ ジ オ 等					
13項	イ	駐 車 場 等					
	ロ	飛 行 機 の 格 納 庫 等					
14項		倉 庫 等	2				
15項		事 務 所 等	17				
16項	イ	特 定 複 合 用 途	30	1			
	ロ	複 合 用 途	15				
17項		重 要 文 化 財 等					

※6項ロは、主として要介護状態にある者を入居させる福祉施設

※6項ハは、6項ロ以外の福祉施設

▼ 用途別の消防同意処理状況 ▼

(平成31年4月1日現在)

用途別			年度・件数・面積		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
			件数	面積㎡	件数	面積㎡	件数	面積㎡		
合 計			94	12,744.48	82	10,082.75	110	13,535.66		
1項	イ	映 画 館								
	ロ	公会堂・集会場								
2項	イ	キャバレー等								
	ロ	遊 技 場 等								
	ハ	性 風 俗 関 連 等								
	ニ	カラオケボックス等 個室型店舗								
3項	イ	料 理 店 等								
	ロ	飲 食 店 等								
4項		店舗・マーケット	1	965.08			1	51.60		
5項	イ	旅館・ホテル								
	ロ	共 同 住 宅	1	209.64			1	289.22		
6項	イ	病 院 ・ 診 療 所								
	ロ	福 祉 施 設 等								
	ハ	福 祉 施 設 等	3	1,611.24	1	306.39	2	1,466.79		
	ニ	幼 稚 園 等								
7項		学 校								
8項		図 書 館 等								
9項	イ	蒸 気 ・ 熱 気 浴 場								
	ロ	イ以外の公衆浴場								
10項		駅 舎								
11項		神 社 等								
12項	イ	工 場 ・ 作 業 場								
	ロ	映 画 ・ スタジオ等								
13項	イ	駐 車 場 等								
	ロ	飛行機の格納庫等								
14項		倉 庫 等			1	87.78				
15項		事 務 所 等	1	119.97	1	73.92				
16項	イ	特 定 複 合 用 途	2	216.16	2	611.15				
	ロ	複 合 用 途								
17項		重 要 文 化 財 等								
18項		ア ー ケ ー ド								
専 用 住 宅			86	9,622.39	77	9,003.51	106	11,728.05		

◇ 危険物 ◇

▼ 危険物製造所等の区別設置件数の推移 ▼

(平成31年4月1日現在)

区 分		年 度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
総 数			13	13	14
製 造 所					
貯 蔵 所	屋 内 貯 蔵 所		1	1	1
	屋外タンク貯蔵所		1	1	1
	屋内タンク貯蔵所				
	地下タンク貯蔵所		7	7	7
	簡易タンク貯蔵所				
	移動タンク貯蔵所				1
	屋 外 貯 蔵 所				
取 扱 所	給油取扱所	営 業	1	1	1
		自 家			
	販売取扱所	第 1 種			
		第 2 種			
	一 般 取 扱 所		3	3	3

▼ 危険物製造所等における危険物の貯蔵及び取扱量 ▼

(平成31年4月1日現在)

区 分		施 設 数						
		合計 (件)	第1類 (L)	第2類 (L)	第3類 (L)	第4類 (L)	第5類 (L)	第6類 (L)
製造所等の別								
合 計		13				247,460		
製 造 所								
貯 蔵 所	屋 内 貯 蔵 所	1				2,860		
	屋外タンク貯蔵所	1				1,900		
	屋内タンク貯蔵所							
	地下タンク貯蔵所	7				132,700		
	簡易タンク貯蔵所							
	移動タンク貯蔵所					1,940		
	屋 外 貯 蔵 所							
取 扱 所	給油取扱所	営 業	1			91,800		
		自 家						
	販売取扱所	第 1 種						
		第 2 種						
	一 般 取 扱 所	3				16,260		

▼ 倍数別危険物製造所等の設置状況 ▼

(平成31年4月1日現在)

製造所等の別		合計	倍 数 の 別						
			五倍以下	五倍を超え 十倍以下	十倍を超え 五十倍以下	五十倍を超え 百倍以下	百倍を超え 百五十倍以下	百五十倍を超え 二百倍以下	二百倍を超え 五千倍以下
合 計		14	10	1	1	1			1
製 造 所									
貯蔵所	屋内貯蔵所	1	1						
	屋外タンク貯蔵所	1	1						
	屋内タンク貯蔵所								
	地下タンク貯蔵所	7	5		1	1			
	簡易タンク貯蔵所								
	移動タンク貯蔵所	1	1						
	屋外貯蔵所								
取扱所	給油取扱所	営業	1						1
		自家							
	販売取扱所	第1種							
		第2種							
	一般取扱所	3	2	1					

▼ 危険物製造所等に係る申請及び届出の状況 ▼

(平成30年中)

製造所等の別		許可		完成		水張検査	廃止届	仮使用	仮貯蔵・取扱
		設置	変更	設置	変更				
合 計			1	1					
製 造 所									
貯蔵所	屋内貯蔵所								
	屋外タンク貯蔵所								
	屋内タンク貯蔵所								
	地下タンク貯蔵所								
	簡易タンク貯蔵所								
	移動タンク貯蔵所		1	1					
	屋外貯蔵所								
取扱所	給油取扱所	営業							
		自家							
	販売取扱所	第1種							
		第2種							
	一般取扱所								

◇ 査 察 ◇

(1) 危険物製造所等に対する査察等の実施状況

(平成30年度)

実施件数 区分	製造所等の総数	査察実施数	完成検査 実施数	指 導 件 数	是正件数
合 計	13	13	1	2	1
製 造 所					
屋 内 貯 蔵 所	1	1			
屋外タンク貯蔵所	1	1			
屋内タンク貯蔵所					
地下タンク貯蔵所	7	7		1	
簡易タンク貯蔵所					
移動タンク貯蔵所			1		
屋 外 貯 蔵 所					
給 油 取 扱 所	1	1			
第1種販売取扱所					
第2種販売取扱所					
一 般 取 扱 所	3	3		1	1

(2) 防火対象物に対する査察実施状況

(平成30年度)

防火対象物の区分		項目	防火対象物数	査察実施数	指導件数	是正件数
合計			722	71	49	20
1項	イ	映画館				
	ロ	公会堂・集会場	40	5	3	1
2項	イ	キャバレー等				
	ロ	遊技場等				
	ハ	性風俗関連等				
	ニ	カラオケボックス等 個室型店舗				
3項	イ	料理店等				
	ロ	飲食店等	24	2	1	
4項		店舗・マーケット	39	3	3	3
5項	イ	旅館・ホテル	4	2		
	ロ	共同住宅	295	27	21	3
6項	イ	病院・診療所	22			
	ロ	福祉施設等	6	6	3	1
	ハ	福祉施設等	28	5	1	1
	ニ	幼稚園等	5	2	2	2
7項		学校	8			
8項		図書館等	1			
9項	イ	蒸気・熱気浴場				
	ロ	イ以外の公衆浴場				
10項		駅舎				
11項		神社等	20	1		
12項	イ	工場・作業場	43	3	3	2
	ロ	映画・スタジオ等				
13項	イ	駐車場等				
	ロ	飛行機の格納庫等				
14項		倉庫等	8	1	1	1
15項		事務所等	70	5	3	1
16項	イ	特定複合用途	69	8	7	5
	ロ	複合用途	40	1	1	

※ 6項ロは、主として要介護状態にある者を入居させる福祉施設

※ 6項ハは、6項ロ以外の福祉施設

(3) 消防用設備等に対する完成検査実施状況

(平成30年中)

消防用設備等	項目	設置届等	検査
合計		17	5
消火器		3	
屋内消火栓		1	1
スプリンクラー設備			
水噴霧消火設備			
屋外消火栓設備			
自動火災報知設備		6	2
ガス漏れ火災警報器			
漏電火災警報器			
消防機関へ通報する 火災報知設備		2	2
非常警報設備			
避難器具		1	
誘導灯		4	
連結散水栓設備			
連結送水管設備			
非常電源			

消防の活動



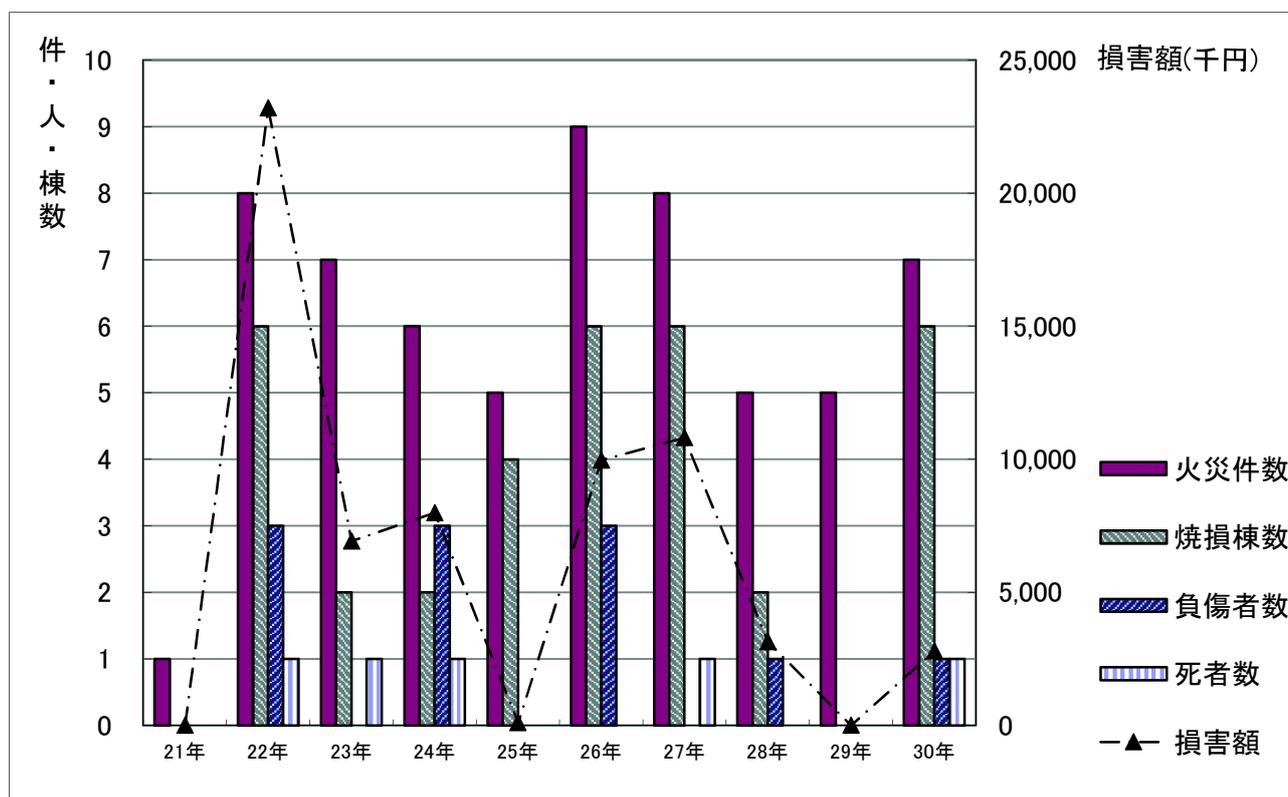
◇ 火災概要 ◇

▼火災の発生状況（過去10年間）▼

平成30年中の火災発生件数は7件で、建物火災が3件、その他火災が4件でした。
 主な出火原因として、放火又は放火疑い、調理器具や残り火の不適切な取扱いによるものが8割以上を占めており、火災予防思想の更なる普及に努めていく必要があります。

区分 年中	火災種別							死 者	負 傷 者	り 災 世 帯	り 災 人 員	損 害 額 合 計 (千円)	損 害 額		焼 損 棟 数	建 物 焼 損 面 積 (㎡)
	合	建	林	車	船	航	そ						建 物 火 災	建 の 物 火 災 以 外 災		
	計	物	野	両	船	機	他									
平成 21年	1			1							6		6			
〃 22年	8	8					1	3	5	18	23,204	23,204		6	471	
〃 23年	7	2		3			2	1	2	4	6,925	6,630	295	2	106	
〃 24年	6	2		2			2	1	3	2	7,996	5,478	2,518	2	216	
〃 25年	5	4					1		3	5	101	101		4	4	
〃 26年	9	6	1				2	3	5	12	9,966	9,955	11	6	173	
〃 27年	8	4		1			3	1	5	7	10,822	10,816	6	6	144	
〃 28年	5	2		2			1	1	2	2	3,147	1,835	1,312	2	37	
〃 29年	5			1			4				2		2			
〃 30年	7	3					4	1	1	6	15	2,800	2,800		6	155.3

※建物焼損面積は、「焼損床面積」と「焼損表面積」を合算した数値



▼月別火災発生状況▼

(平成30年中)

区分		月	計	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
火災種別	建物		3					1	1				1			
	林野															
	車両															
	その他		4				1	2	1							
原因大別	失火		3					2	1							
	放火・疑い		3					1	1				1			
	不明															
	その他		1				1									
死傷者	死者		1										1			
	負傷者		1						1							
建物	焼損棟	火元棟	全焼	1				1								
		半焼														
		部分焼	1										1			
		ぼや	1							1						
	棟数	類焼棟	全焼													
		半焼														
		部分焼														
		ぼや	3						3							
	火災世帯	り	全損	1					1							
		半損														
		小損	5						3	1				1		
		計	6						4	1				1		
り	災者数	15					10	2				3				
災損面積(m ²)	焼損面積	全焼	76.9					76.9								
	半焼															
	部分焼	2											2			
	ぼや	76.4						76	0.4							
(m ²)	計	155.3					152.9	0.4				2				
林野焼損面積(m ²)																
車両(台数)																
その他焼損面積(m ²)			108.9				48.9	60.0								
損害見積額	家屋	建物	2,609					2,508	94				7			
		収容物	191					170					21			
	林野															
	車両															
	その他															
計(千円)			2,800				2,678	94				28				

◇ 消防隊の出場状況 ◇

▼月別救助出場状況▼

(平成30年中)

区分		月	計	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
救助 出場	交通事故(件)		3		1						1				1	
	救助人員(人)		2		1										1	
	建物等による事故(件)															
	救助人員(人)															
	機械による事故(件)															
	救助人員(人)															
	その他(件)		5			1	1				1	1		1		
	救助人員(人)		3			1					1	1				
	件数合計(件)		8		1	1	1				1	2		1		1
	人員合計(人)		5		1	1					1	1				1
傷病者 程度	死亡		1												1	
	重症		2		1	1										
	中等症		2							1	1					
	軽症															
	合計		5		1	1					1	1			1	

▼月別警戒出場状況▼

(平成30年中)

区分		月	計	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
種別	火災警戒		16			1	1		1	1	1	4	2	3	2
	危険排除		5	3						1					1
	Dr.へリ		5		1	2									2
	その他		12	1	2	2	1				1		5		
	合計		38	4	3	5	2		1	2	2	4	7	3	5

※1 誤報も火災警戒を含む

※2 その他には風水害に係る出動も含む

▼月別救急支援出場状況▼

(平成30年中)

区分		月	計	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
種別	交通事故		17	1	1	4	1	2	1		2	1	2	2	
	救命対応		57	12	5	8	3	2	8	2	5	1	3	1	7
	その他		160	18	9	9	22	16	22	11	6	7	12	9	19
	合計		234	31	15	21	26	20	31	13	13	9	17	12	26

▼月別応援出場状況▼

(平成30年中)

区分		月	計	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
大磯管内	火災		6			1	1	2					1		1
	救急		17	1		2	2	3		3	4		2		
	救助														
小田原管内	火災														
	救急 救助		2			1						1			

◇ 救 急 ◇

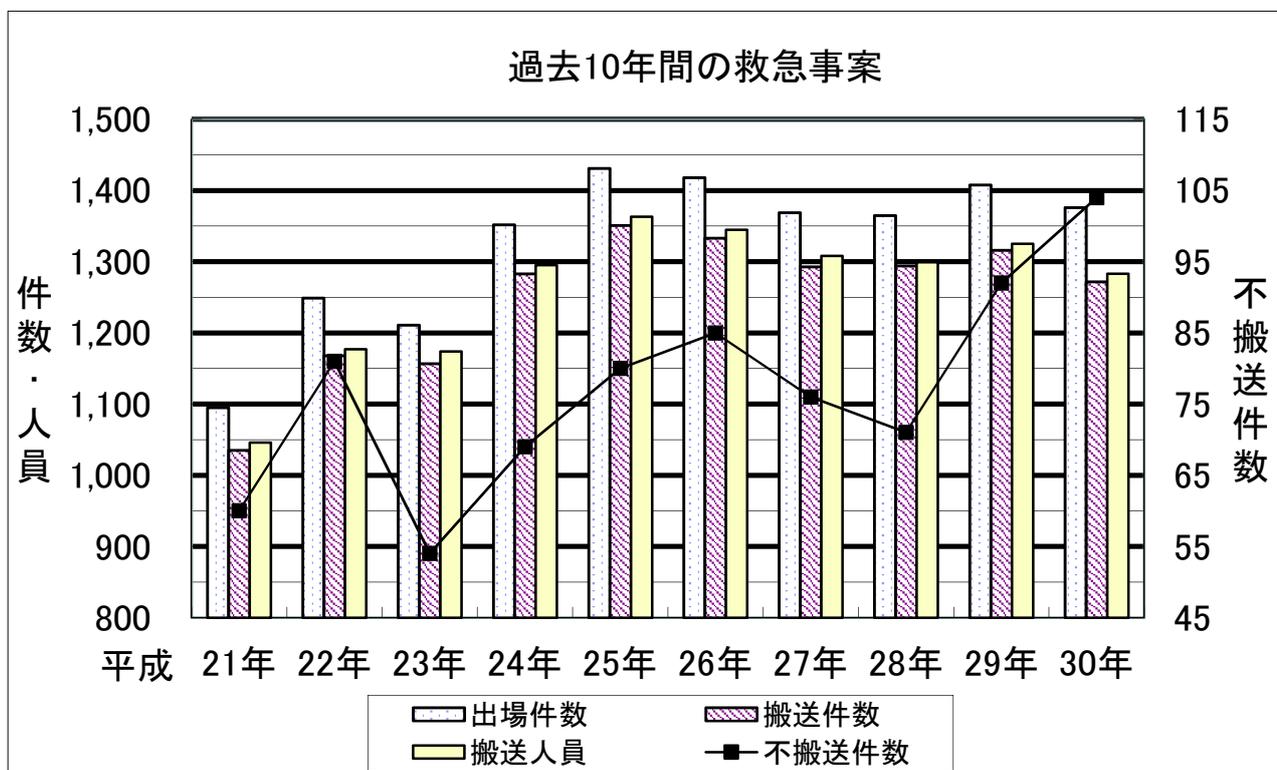
▼救急出場件数推移▼

平成30年中における救急業務の実施状況については、出動件数が1,376件で1日平均約3.8件、搬送人員は1,283人でした。昨年中と比較すると出動件数で32件、搬送人員で42人減少しています。また65歳以上の方の割合は約70%を占めています。

救急要請が重なり、2台目の救急車が出動した件数は、188件で、2台とも出動中に救急要請があり近隣の消防本部に応援出動を要請した件数は17件でした。

搬送した傷病者の初診時傷病程度の内訳は軽症37%、中等症52%、重症9%、心肺停止等での死亡が2%でした。

年	区分	出場件数	搬送件数	搬送人員	不搬送件数	一日平均
平成	21年	1,095	1,035	1,046	60	3.0
〃	22年	1,249	1,168	1,177	81	3.4
〃	23年	1,211	1,157	1,174	54	3.3
〃	24年	1,352	1,283	1,295	69	3.7
〃	25年	1,431	1,351	1,363	80	3.9
〃	26年	1,418	1,333	1,345	85	3.9
〃	27年	1,369	1,293	1,308	76	3.8
〃	28年	1,365	1,294	1,299	71	3.7
〃	29年	1,408	1,316	1,325	92	3.9
〃	30年	1,376	1,272	1,283	104	3.8



▼月別救急活動状況▼

(平成30年中)

事故種別 区分		合 計	一 日 平 均	火 災 事 故	自 然 災 害	水 難 事 故	交 通 事 故	労 働 災 害	運 動 競 技	一 般 負 傷	加 害 事 故	自 損 行 為	急 病	そ の 他
合計	出場件数	1,376	3.8	21		1	81	8	12	249	4	7	937	56
	搬送人員	1,283	3.5				73	8	11	234	3	5	905	44
	不搬送件数	104	0.3	21		1	15		1	15	1	2	36	12
1月	出場件数	128	4.1				4			25	1	1	93	4
	搬送人員	115	3.7				4			22	1		85	3
	不搬送件数	11	0.4				1			3		1	5	1
2月	出場件数	101	3.6				5		1	18			70	7
	搬送人員	97	3.5				6		1	17			68	5
	不搬送件数	7	0.3							1			4	2
3月	出場件数	120	3.9	2			13		1	23			78	3
	搬送人員	112	3.6				12		1	20			76	3
	不搬送件数	9	0.3	2			2			3			2	
4月	出場件数	115	3.8	1		1	6		1	17			82	7
	搬送人員	105	3.5				3		1	16			82	3
	不搬送件数	12	0.4	1		1	3						3	4
5月	出場件数	99	3.2	3			6			21			67	2
	搬送人員	94	3.0				7			21			64	2
	不搬送件数	7	0.2	3						1			3	
6月	出場件数	114	3.8	3			5	2	1	14	1		81	7
	搬送人員	102	3.4				4	2	1	14			75	6
	不搬送件数	11	0.4	3			1				1		6	
7月	出場件数	128	4.1	1			5	2	2	24		1	87	6
	搬送人員	120	3.9				6	2	2	23		1	81	5
	不搬送件数	8	0.3	1						1			4	2
8月	出場件数	133	4.3	1			7			29		2	89	5
	搬送人員	126	4.1				5			27		2	87	5
	不搬送件数	7	0.2	1			2			2			2	
9月	出場件数	100	3.3	3			6	2	1	12	1	1	70	4
	搬送人員	94	3.1				4	2	1	12	1	1	71	2
	不搬送件数	8	0.3	3			2						1	2
10月	出場件数	118	3.8	2			10		3	24			75	4
	搬送人員	112	3.6				11		2	22			74	3
	不搬送件数	7	0.2	2			1		1	1			1	1
11月	出場件数	97	3.2	3			9		1	17			63	4
	搬送人員	90	3.0				8		1	15			62	4
	不搬送件数	8	0.3	3			1			2			2	
12月	出場件数	123	4.0	2			5	2	1	25	1	2	82	3
	搬送人員	116	3.7				3	2	1	25	1	1	80	3
	不搬送件数	9	0.3	2			2			1		1	3	

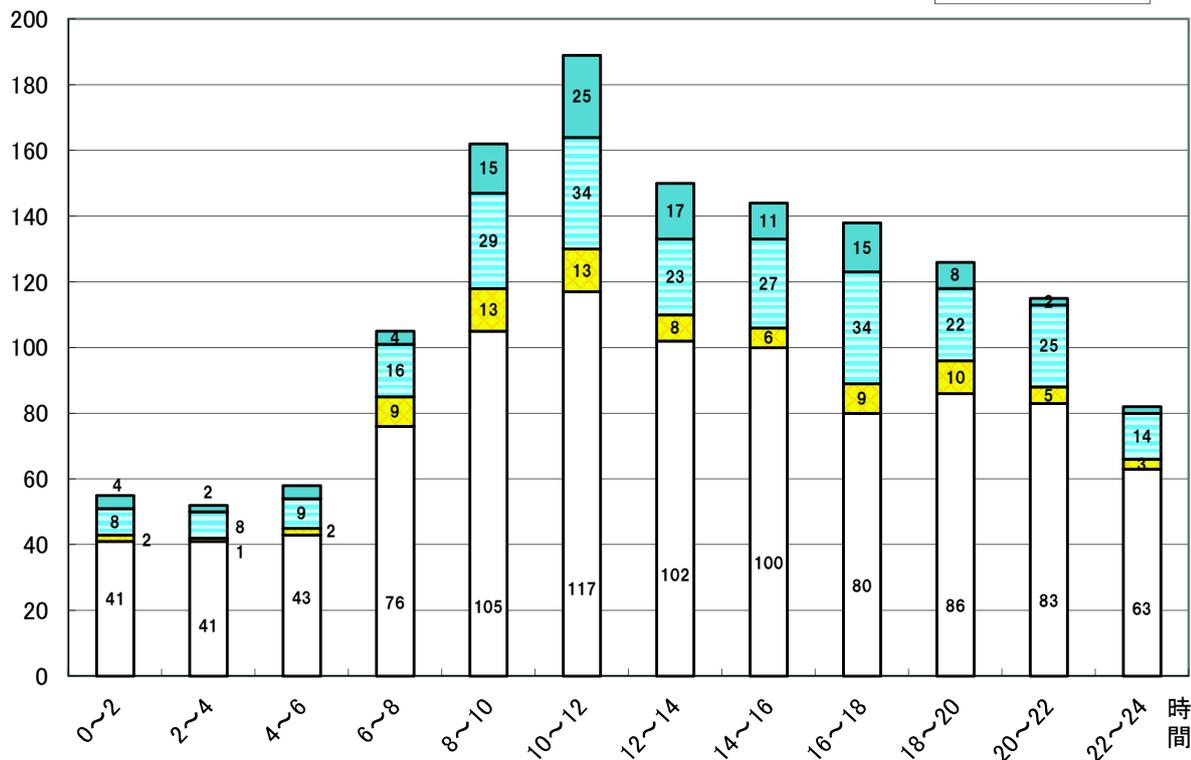
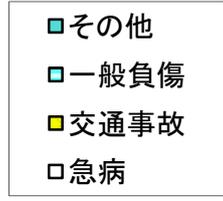
▼曜日別救急発生状況▼

(平成30年中)

曜日別 事故別	合計	火災 事故	自然 災害	水難 事故	交通 事故	労働 災害	運動 競技	一般 負傷	加害 事故	自損 行為	急病	その他
合計	1,376	21		1	81	8	12	249	4	7	937	56
月	225	4			8	3	1	33		4	163	9
火	184	1		1	12	1		34			123	12
水	208	4			12	2		38	1	1	144	6
木	182	1			10		1	33		1	131	5
金	202	3			18	2	2	46	1		119	11
土	182	5			8		1	36	1	1	122	8
日	193	3			13		7	29	1		135	5

▼時間別救急発生状況▼

件数



▼事故種別不搬送件数▼

(平成30年中)

種別 \ 理由	合計	緊な 急 性し	傷な 病 者し	拒 否	酩 酊	死 亡	現 場 処 置	誤 い た ず 報 ら	そ の 他
合計	104	14	31	31	5	13	2	5	3
急病	36	5	3	13		11	1	2	1
交通事故	15	1	3	11					
一般負傷	15	6		5	2		1		1
その他	38	2	25	2	3	2		3	1

▼地区別出場件数▼

(平成30年中)

地区	合計	二宮	山西	中里	百合が丘	一色	富士見が丘	緑が丘	川匂	松根	その他
件数	1,376	428	245	170	207	63	129	63	36	11	24

▼覚知別件数▼

《覚知別発生状況》

(平成30年中)

種別	合計	専用(119)	加入電話	駆け込み	携帯(転送)	シルバー通報	その他
件数	1,376	1,265	83	9		1	18

▼所要時間別出場件数と搬送人員▼

(平成30年中)

時間経過 事故種別	合計 件数	現場到着所要時間(覚知から現場到着)					病院収容時間(覚知から病院到着)				
		0分 〜 3分	3分 〜 5分	5分 〜 10分	10分 〜 20分	20分 以上	搬送 人員 合計	0分 〜 20分	20分 〜 30分	30分 〜 60分	60分 以上
計	1,376	19	351	952	52	2	1,283	5	237	988	53
急病	937	9	239	658	31		905	3	160	714	28
交通事故	81	5	22	47	7		73	2	13	55	3
一般負傷	249	4	56	185	4		234		39	177	18
その他	109	1	34	62	10	2	71		25	42	4

▼傷病程度と年齢別搬送人員▼

(平成30年中)

事故種別	年 齢 区 分						傷 病 程 度				
	合 計	新 生 児	乳 幼 児	少 年	成 人	高 齢 者	合 計	死 亡	重 症	中 等 症	軽 症
合 計	1,283		57	62	264	900	1,283	25	121	667	470
急 病	905		37	33	168	667	905	22	98	489	296
交通事故	73		2	12	37	22	73	1	3	23	46
一般負傷	234		17	11	31	175	234		12	117	105
その他	71		1	6	28	36	71	2	8	38	23

その他は、火災・水難・労働災害・運動競技・加害・自損行為・自然災害事故等含む。

「年齢区分の内容」

区 分	内 容
新生児	生後0日～28日未満
乳幼児	生後28日～満7才未満
少年	満7才～満18才未満
成人	満18才～65才未満
高齢者	満65才以上

「傷病程度の内容」

程 度	内 容
死 亡	初診時に死亡確認
重 症	入院3週間以上又は重篤
中等症	入院を要し重症に至らない
軽 症	入院を必要としない

▼応急処置等実施状況▼

(平成30年中)

事故種別	急 病	交通事故	一般負傷	その他	計
応 急 処 置 等 対 象 人 員	888	69	228	68	1,253
応 急 処 置 件 数 ※	3,166	278	838	240	4,522
止 血 (止 血 帯 等)	12	7	35	2	56
固 定 (副 子 等・頸 部・全 身)	8	48	79	9	144
人 工 呼 吸	1				1
心 肺 蘇 生	26	2	2	2	32
酸 素 吸 入	182	6	12	12	212
気 道 確 保	39	2	3	2	46
保 温	55	4	10	5	74
被 覆	5	13	60	2	80
在 宅 療 法 継 続	2				2
シ ョ ッ ク パ ン ツ に よ る 血 圧 保 持					
除 細 動 (包 括 的)	2		1		3
静 脈 路 確 保 (C P A 前)	7				7
静 脈 路 確 保 (C P A 後)	19	2	2	2	25
ア ド レ ナ リ ン 投 与	17	2	2	2	23
血 糖 測 定	5	1			6
ブ ド ウ 糖 投 与	2				2
そ の 他 の 応 急 処 置	3	1		1	5
血 圧 測 定	843	66	221	64	1,194
聴 診 器 に よ る 聴 取	454	33	114	33	634
血 中 酸 素 飽 和 度 の 測 定	845	66	226	62	1,199
心 電 図	639	25	71	42	777

※同一傷病者に複数の処置を行うことがあるため、対象人員とは一致しません。

▼応急手当等の講習会の実施状況▼

平成30年度の応急手当等の講習会の開催回数は31回で、496名の方が受講されました。

普通救命講習の受講者は463名で、累計受講者数は5,783名、上級救命講習については2回開催し15名の方が受講され、累計受講者数は319名となりました。(平成31年4月1日現在)

救命率の向上を図るため、多くの町民の方に受講していただきました。また、自動体外式除細動器(AED)も町内の公共施設をはじめ、一般企業や事業所等にも設置されています。町内のAEDについては、二宮町のホームページでも随時公表しています。

(平成30年度)

講習会区分	回数	月日	受講者区分	受講者	新規	再講習	男性	女性
普通救命講習	1	4月 9日	二宮町役場(新採用)	8	8		2	6
〃	2	4月 15日	二宮町消防団	6	6		6	0
〃	3	5月 27日	たすけあいワーカーズ 大空	23	4	19	3	20
〃	4	6月 2日	たすけあいワーカーズ 大空	17	3	14	5	12
〃	5	6月 9日	消防署主催定期開催(6月)	15	9	6	10	5
〃	6	6月 9日	山西地区 子供会	8	7	1	3	5
〃	7	6月 14日	星槎学園 湘南校	38	38		22	16
〃	8	6月 15日	星槎学園 湘南校	47	47		32	15
〃	9	7月 1日	二宮町体育協会	8	4	4	4	4
〃	10	7月 2日	二宮町生涯学習課	11	2	9	7	4
〃	11	7月 14日	消防署主催定期開催(7月)	4		4	2	2
〃	12	7月 25日	二宮町教育委員会	19	6	13	7	12
〃	13	7月 30日	二宮中学校	33	33		17	16
〃	14	7月 31日	二宮中学校	37	37		19	18
〃	15	8月 1日	二宮町教育委員会	18	5	13	10	8
〃	16	8月 2日	二宮中学校	42	40	2	21	21
〃	17	8月 6日	二宮西中学校	32	31	1	17	15
〃	18	8月 7日	二宮西中学校	51	51		25	26
〃	19	8月 8日	二宮町教育委員会	5	3	2	0	5
〃	20	8月 11日	消防署主催定期開催(8月)	1		1	1	0
〃	21	9月 8日	消防署主催定期開催(9月)	3	2	1	2	1
〃	22	9月 13日	二宮町健康づくり普及委員協議会	10	4	6		10
〃	23	10月 13日	消防署主催定期開催(10月)	1		1		1
〃	24	11月 10日	消防署主催定期開催(11月)	11	9	2	7	4
〃	25	12月 6日	心泉学園	10	5	5	2	8
〃	26	12月 8日	消防署主催定期開催(12月)	1		1	1	0
〃	27	1月 14日	消防署主催定期開催(1月)	2	2		1	1
〃	28	2月 9日	消防署主催定期開催(2月)	2	2		1	1
上級救命講習	1	9月 15日	消防署主催	7	3	4	4	3
〃	2	2月 17日	消防署主催	8	7	1	3	5
その他の講習	1	6月 15日	横浜地方方法務局 西湘二宮支局	18			14	4
合 計				478	368	110	234	244

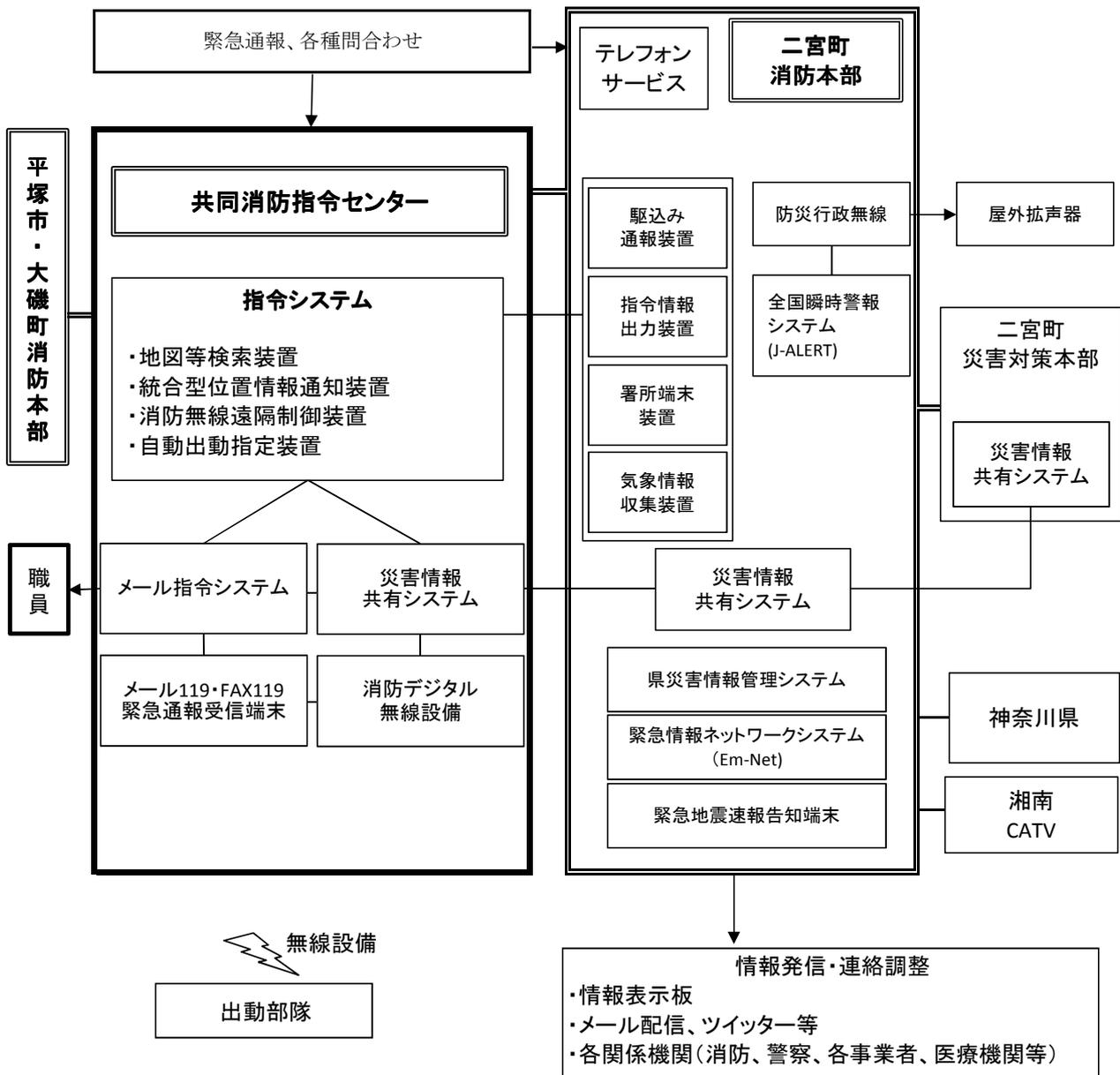
◇ 通信指令業務 ◇

(平成31年4月1日現在)

平成29年4月より平塚市・大磯町・二宮町の1市2町で共同消防指令センターが整備され、運用されています。指令センターは消防活動の要であり、各市町の消防職員が24時間体制で勤務し、情報が集約される指令台を中心に119番(火災報知専用電話)のほか数多くの通信情報システムを運用し、災害出動指令や無線交信などに従事しています。

このシステムにて各市町で発生した災害情報を一元管理することで、相互に連携を図り、円滑な出動部隊の編制や出動指令を行うと共に必要な情報を共有できるため、災害対応体制が充実し、より迅速・的確な活動が可能となりました。

▼通信系統図▼



◇ 災害出動体制 ◇

各種災害通報は、火災報知専用電話(119番)等を通じて、平成29年4月1日から運用を開始した「平塚市・大磯町・二宮町共同消防指令センター」で受信します。通報を受けた指令員は、二宮町消防署出動計画に準じて隊員に出動指令をかけます。また、災害の状況に応じて消防団が召集されます。

消防本部・消防署

水槽付消防ポンプ自動車	消防ポンプ(水槽付)自動車	救助工作車	積載車	救急自動車1	救急自動車2	指令車	広報車	可搬ポンプ
-------------	---------------	-------	-----	--------	--------	-----	-----	-------

消防団

本部	第1分団	第2分団	第3分団	第4分団	第5分団
団本部車	消防ポンプ自動車 可搬ポンプ	消防ポンプ自動車 可搬ポンプ	消防ポンプ自動車 可搬ポンプ	消防ポンプ自動車 可搬ポンプ	消防ポンプ自動車 可搬ポンプ

▼救助出動体制▼

火災や交通事故、労働災害等の複雑化する都市災害から人命を守るため、救助工作車(平成18年度)を配備し、あらゆる災害に対処できるように訓練に臨んでいます。

救助工作車資機材

資機材名	数量	資機材名	数量	資機材名	数量
クレーン装置	1	空気切断機	1	救命浮環	1
ウインチ装置	1	自動車ガラス切断・破砕機	1	化学防護服	5
照明装置	1	可搬ウインチ	1	耐電衣	2
超高圧消火装置	1	救命索発射銃	1	防毒マスク	5
大型油圧救助器具	3	送排風機	1	救助用縛帯	8
簡易画像探索器	1	発動発電機	1	携帯警報器	5
マット型空気シヤッキ	1	バスケット型担架	1	マルチガス測定器	1
マンホール救助器具	1	平型担架	1	空間線量計	1
エンジンカッター	1	全脊柱固定器具	1	個人線量計	5
チェーンソー	1	山岳救助器具	1	搬送器具(ハーフスケッド)	1
携帯用コンクリート破壊器具	1	救命胴衣	3		

▼水防(自然災害)出動と体制 ▼

二宮町は、比較的大きな河川がなく、過去に水害による大規模な被害を受けたことはありませんが、集中豪雨や台風の際には河川の氾濫・道路冠水・土砂災害等の被害が発生する恐れがあります。このため、降雨時は雨量の把握に努め、早期に警戒体制を強化しています。

(平成30年中)

気象状況	回数	活動内容
大雨警報	7	情報収集等及び町内巡回
洪水警報	5	情報収集等及び町内巡回

水防資材(消防本部管理分)

(平成31年4月1日現在)

品名	数量	品名	数量	品名	数量
一輪車	1台	スコップ	76丁	土のう袋	7,600枚
水中ポンプ	1基	土のう用止め杭	600本	緊急用土のう袋	260枚
のこぎり	7丁	防水シート	560枚	ロープ	〆
カケヤ	19丁	大ハンマー	6丁		

▼緊急消防援助隊▼

緊急消防援助隊は、消防組織法第44条の規定に基づき、災害等による非常事態の場合に消防の応援等を行うことを任務としています。東南海地震等の大規模災害への素早い対応を見据え、常日頃から派遣職員の人選や物資の確保及び資材の点検をして有事の際の対応に備えています。

▼消防相互応援協定▼

消防相互応援協定は、消防組織法第39条の規定に基づき、大災害等が発生した際に相互の消防力を補い、被害の軽減を図っています。この協定は、全国、県内、隣接市町などで締結され、航空応援・特別応援・通常応援等に区分されています。

《応援・受援状況》

(平成30年中)

応援消防本部		合計				小田原市消防本部				大磯町消防本部				その他				
区分		応援		受援		応援		受援		応援		受援		応援		受援		
出場回数	種別	特別	通常	特別	通常	特別	通常	特別	通常	特別	通常	特別	通常	特別	通常	特別	通常	
	火災・救助		10	2	3		2	1		8	1	3						
	救急・救急支援	15	4	17			2			15	2	17						

被災市町からの要請が無い場合でも、互いに協力し出場する区域は次のとおりです。

《通常応援出場区域》

二宮町消防本部	平塚市消防本部
平塚市のうち土屋	二宮町のうち一色
二宮町消防本部	大磯町消防本部
大磯町全域	二宮町全域

二宮町消防本部	小田原市消防本部
小田原市のうち小竹(中村川以東)・川匂・山西・東ヶ丘・中村原(県道中井羽根尾線以東)・羽根尾(東海道本線以南)・中井町井ノ口(県道平塚松田線以南)	二宮町のうち一色・百合が丘一丁目～三丁目・川匂・山西(梅沢川及び町道170号線以西)

《通常応援出場区域(自動車専用道路受持区域)》

二宮町消防本部	大磯町消防本部
小田原・厚木道路のうち、二宮インターから大磯インターまでの区間の上り線。 西湘バイパスのうち二宮インターから大磯西インターまでの区間の上り線。	小田原・厚木道路のうち、大磯インターから二宮インターまでの区間の下り線。 西湘バイパスのうち大磯西インターから二宮インターまでの区間の下り線。

二宮町消防本部	小田原市消防本部
小田原・厚木道路のうち、二宮インターから小田原料金所までの区間の下り線。 西湘バイパスのうち二宮インターから国府津インターまでの区間の下り線。	小田原・厚木道路のうち、小田原料金所から二宮インターまでの区間の上り線。 西湘バイパスのうち国府津インターから二宮インターまでの区間の上り線。

◇ 消防水利 ◇

二宮町内の消防水利は、水資源の関係から大部分が消火栓で充足されていますが、市街地周辺部は水道管口径が細く、更なる消防水利の確保が重要となります。

消防水利の充実と震災時の対応のため、防火水槽の設置などにより水利不足の解消に努めています。

▼ 消防水利の現勢調 ▼

(平成31年4月1日現在)

種別 区分	水利 合計	消 火 栓			防 火 水 槽			そ の 他	
		小計	公設	私設	小計	公設	私設	プール	堀池等
基準数	409								
適合水利	368	309	308	1	59	53(耐震17)	6(耐震5)		
充足率	90%								
現有数	452	380	378	2	72	66	6		

※適合水利とは、消防水利の基準に適合した施設数

消火栓は、直径150ミリメートル以上の管口径に取り付けられたものがふさわしく、また防火水槽についても常に40トン以上貯水されたものが消防水利として適しています。

※現有数とは、消防水利の基準にかかわらず全部の施設数

※公設防火水槽72基のうち2基が飲料水兼用耐震性貯水槽

◇ 気象 ◇

気象観測による情報は、火災の予防や消防活動全般に大切であるとともに、風水害などの予防や被害軽減のために重要な役割を果たしています。

火災は、気象条件と密接な関係があるため、気象条件によっては火災の規模や出火率も左右されます。

また、各種災害では、常に気象条件を考慮した活動が要求されるため365日、気象観測装置による観測を実施しています。

▼月別気象状況▼

(平成30年中)

種別 月別	気温(℃)			湿度(%)			風速・風向(m/s)			気圧(hpa) (標高 31m)			降雨 日数	降雨 量 (mm)
	最高	最低	平均	最高	最低	平均	最大	平均	最多 風向	最高	最低	平均		
1月	16.2	-5.4	4.6	98.8	11.6	62.5	16.8	1.3	西南西	1028	988	1011	5	84.5
2月	15.7	-4.1	5.4	97.5	9.9	58.0	15.7	1.4	西	1024	996	1014	3	13.0
3月	21.1	1.1	11.6	99.1	12.5	69.7	19.1	1.5	南東	1033	983	1014	11	330.0
4月	27.7	3.9	16.5	98.6	20.8	71.1	18.6	1.4	南東	1023	992	1011	7	191.5
5月	29.6	8.4	19.5	98.3	21.1	73.5	16.2	1.3	西南西	1019	995	1009	11	170.5
6月	31.3	15.1	22.2	98.3	40.2	83.4	15.1	1.3	南南東	1017	988	1007	13	152.5
7月	34.9	20.0	27.5	98.6	47.5	83.0	20.7	1.2	南東	1018	991	1008	8	225.0
8月	35.9	17.0	28.0	98.3	25.2	79.7	17.6	1.4	南東	1014	992	1006	5	189.5
9月	32.7	14.0	23.0	98.8	39.1	86.9	29.5	1.1	北	1022	980	1011	21	314.0
10月	33.1	9.1	19.1	98.8	20.5	76.2	24.4	1.1	北	1025	977	1013	7	40.0
11月	22.6	4.8	13.9	98.8	31.1	78.0	12.5	1.0	西南西	1024	1004	1017	11	32.0
12月	24.0	-3.1	8.5	98.6	19.7	71.5	11.7	0.9	西南西 西	1029	1000	1015	9	73.5
年	35.9	-5.4	16.7	99.1	9.9	74.5	29.5	1.2	南東 西南西	1033	961	1011	111	1816.0

二 宮 町 消 防 年 報

令和元年 8 月 発 行

編 集 発 行 二 宮 町 消 防 本 部

〒259-0131 神奈川県中郡二宮町中里711-1
TEL(0463)72-0015(代)
FAX(0463)72-0117